

育教の兒幼

號二第 號月二 卷二十三第



內校學範師等高子女京東

會協園稚幼本日

▲定價二圓五十錢
▲送料十一錢

我が子の科学教育

一・新科學教育の根本問題
二・新家庭教育の中心問題
三・母親の良師教師の伴侶

科學教育高潮時代に忘れられたる而も根本的重要なる問題の解決は本書の使命
新家庭教育は賸け問題等に止らず須く時代人として活躍し得る基を與へねばならぬ
本書は自覺ある母姉のために特に書かれたる新著にて初等教育にも又良參考書

〔次目容内〕

第一 科學教育の精神

第二 愛する心
 唯我が兒の科學教育を行はねばならぬ。幼稚園以前の科學教育、感覺器官の練習、感覺より知識に、幼稚園時代、科學教育の時間、實驗や作業、中學時代、第三 直觀
 見ると觀る——直觀の外的要

件・直観の内的要件・注意の条件・兒童の注意・植物と動物・植物の直観・動物の直観・リンチとダウ・イン・メンデルと遺傳

第四 観念の發表

直観と観念・観念と名稱・數量の観念・數量の測定・異同の比較・作業化

第五 我が兒の質問

好奇本能 求知心 疑問の發達 疑問の解決 一面倒の發達 非教育的 答へやうの工夫 人を見て法を説く 知つてゐても性へす 答をさげよ 性の疑問

東京女高師教授 文學博士 下田次郎先生著

約四百頁・定價金二圓
送料十二錢

〔版 八〕

現代
教訓實話集

第一卷

卷二第

▲引例材料に最上児童讀物に妙洗練されたる感話きて應用の途多く又單なる児童生徒讀物として最上。

兌發

東洋圖書株式會社

東大 京阪

番七三〇一京東替振・地番〇一町保神表區田神市京東
番六五五九三阪大替振・地番八十二目丁一町寺堂安内・區南市阪大

新幼稚園唱歌講習會

期 日

二月二十七日(土)
三月五日(土)
三月十二日(土)

午後一時半より四時まで

場 所

東京女子高等師範學校講堂

唱 歌

東京音樂學校內日本教育音樂協會新編纂幼稚園唱歌約二十篇

講 師

東京音樂學校教授

船 橋 榮 吉 氏

會 費

金 壹 圓 五 拾 錢

會員ニ限リ曲譜集「エホン ショウカ」二割引(割引分は本會負擔)

申 込

二月二十五日まで、本會宛

(會費は申込みと同時に日本幼稚園協會振替口座東京一七二六六番にお拂込下さい。)

此の新幼稚園唱歌は日本教育音樂協會の長き努力によつて編纂せられたもので各篇皆東京音樂學校關係諸氏の作曲によるものであります。幼稚園唱歌新材料の要求の頻りなる時之れが普及の一助として同協會の賛同の下に此講習會を計畫しました。講師は特に斯道の大家船橋榮吉氏を煩はし懇切なる指導を願ひます。幼稚園關係者諸君の多數御來會を切望します。

昭和七年二月

東京女子高等師範學校內

日 本 幼 稚 園 協 會

生徒募集

一、本

科

七十名

一、研究

科

若干名

右募集ス

出願期日

三月一日ヨリ三月廿五日迄

規則入用ノ方ハ二錢切手封入申込マルベシ

東京市外大井町原五二〇八

東京昭和保姆養成所

所長 土川 五郎

顧問兼講師 倉橋 惣三

生徒募集

本科生 四十名

研究科生 若干名

願書受付三月廿日迄規則書
は貳錢切手封入の上申込
ま
れよ。

玉成保姆養成所

所長

ソファヤ・アラベラ・アルウ井ン
東京市外高井戸町中高井戸一三三
省線西荻窪下車直南約五丁

創立以來十六年。

大正五年東京市麴町區に創立。

昭和二年武藏野の中なる現在地に新築、
附近に森あり、野あり、川ありて四時自
然の恩恵を受け、本校の特色とする自然
觀察、博物採集、圖書寫生、自然物應用
の手工等材料豊富なり。



育教の兒幼 輯編會協園稚幼本日

會長 主幹

東京女子高等師範學校長
東京女子高等師範學校教授
附屬幼稚園主事

吉岡郷甫
倉橋惣三

日本幼稚園協會規則

- 第一條 本會ハ幼児教育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 第二條 本會ハ日本幼稚園協會ト稱ス
- 第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼児教育ニ篤志ナルモノトス
- 第四條 會員ハ會費トシテ一ヶ月金參拾五錢ヲ齎出スヘシ、會員ハ無料ニテ本會發行雜誌ノ配布ヲ受ケ又本會ノ事業ニ關シ諸種ノ便宜ヲ受ク
- 第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルヘシ
- 第六條 幼稚園ニ關係アルモノニシテ本會ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ヲ與ヘラル、モノニ請ヒテ地方委員トナスコトアルヘシ
- 第七條 本會ハ毎年一回總會ヲ開ク。但場合ニヨリ臨時總會スルコトヲ得
- 第八條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ
 - 一、幼児教育ニ關スル研究及ヒ調査
 - 二、幼児教育ニ關スル講演會及ヒ講習會ノ開催

- 一、雜誌發行(毎月一回)
- 一、幼児教育ニ關スル圖書刊行
- 一、保姆就職及招聘ニ關スル仲介
- 一、其他本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件

第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長 一名 會務ヲ總理ス
主幹 一名 會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス

幹事 若干名 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス
評議員 若干名 重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應ス

第十條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス
第十一條 主幹 幹事 評議員ハ二ケ年ヲ期シテ會長ヨリ推舉スルモノトス

第十二條 本會ハ必要ニ應シ特ニ委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ル、コトアルヘシ

第十三條 本規則ハ總會出席會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス



第三十二卷 幼兒教育 第二號

— (次 目) —

□ 繪 (モンテッソーリ幼稚園)

春待ち日記(巻頭).....	倉橋惣三(一)
繪本唱歌の編纂について.....	乗杉嘉壽(二)
入學檢定の所感.....	(九)
ヴィスコザ會社女工寄宿舎.....	宇佐美けい(一九)
保育事項の分類に就て.....	和田實(二四)
貧しき幼兒達の爲めに.....	丸山千代(二九)
私の幼稚園.....	水島さゆり(三五)
入れ子雛.....	及川ふみ(四)
花壇竝に花壇用草花年中行事——二月——.....	富本光郎(四六)
二月の土いぢり.....	大岩金(四九)
押しくらまんぢゅう.....	土川五郎(五二)
此頃のあそび.....	檜山京(五五)
「およばれの日」あそび.....	柴田みぎり(五九)
貧しき母親の場合.....	牧賢一(六三)

保姆生徒募集

一、募集人員 六十名 (但シ來四月入學セシムルモノ)

一、修業年限 一ケ年

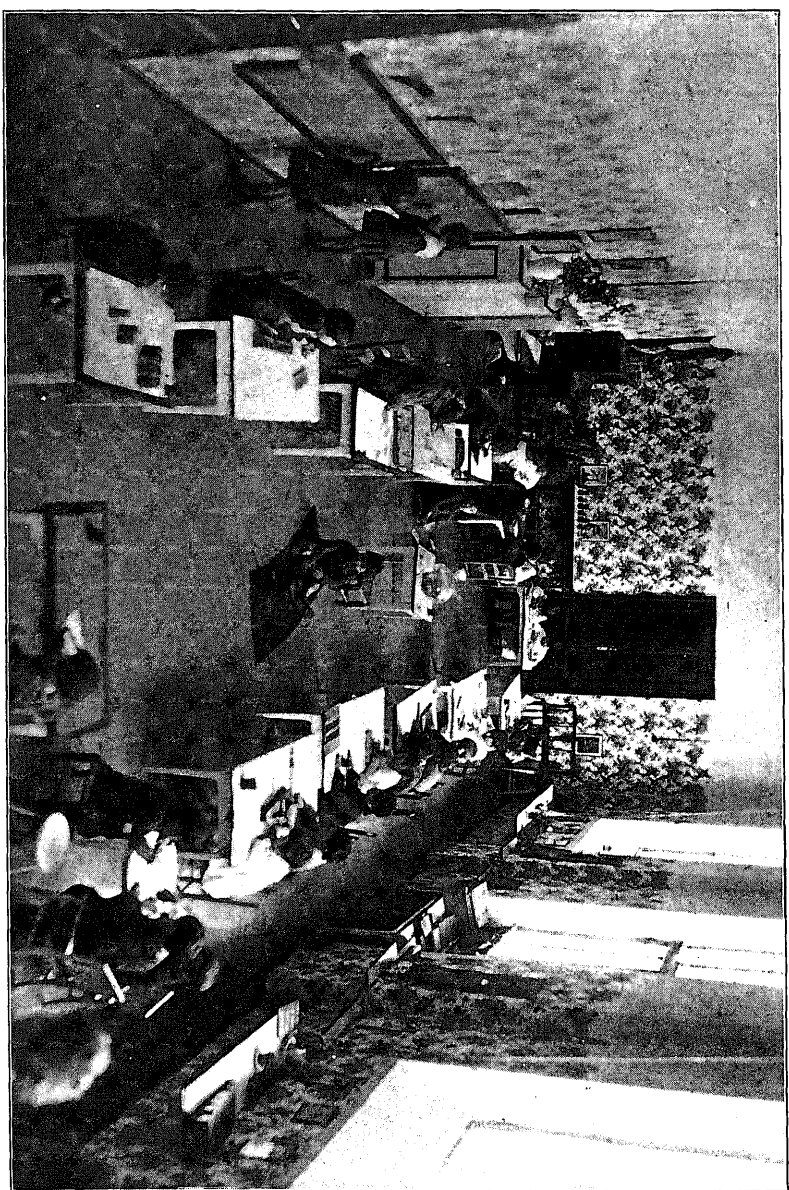
一、出願期日 來ル三月中

右規則御入用ノ方ハ郵券二錢封入御照會アレ

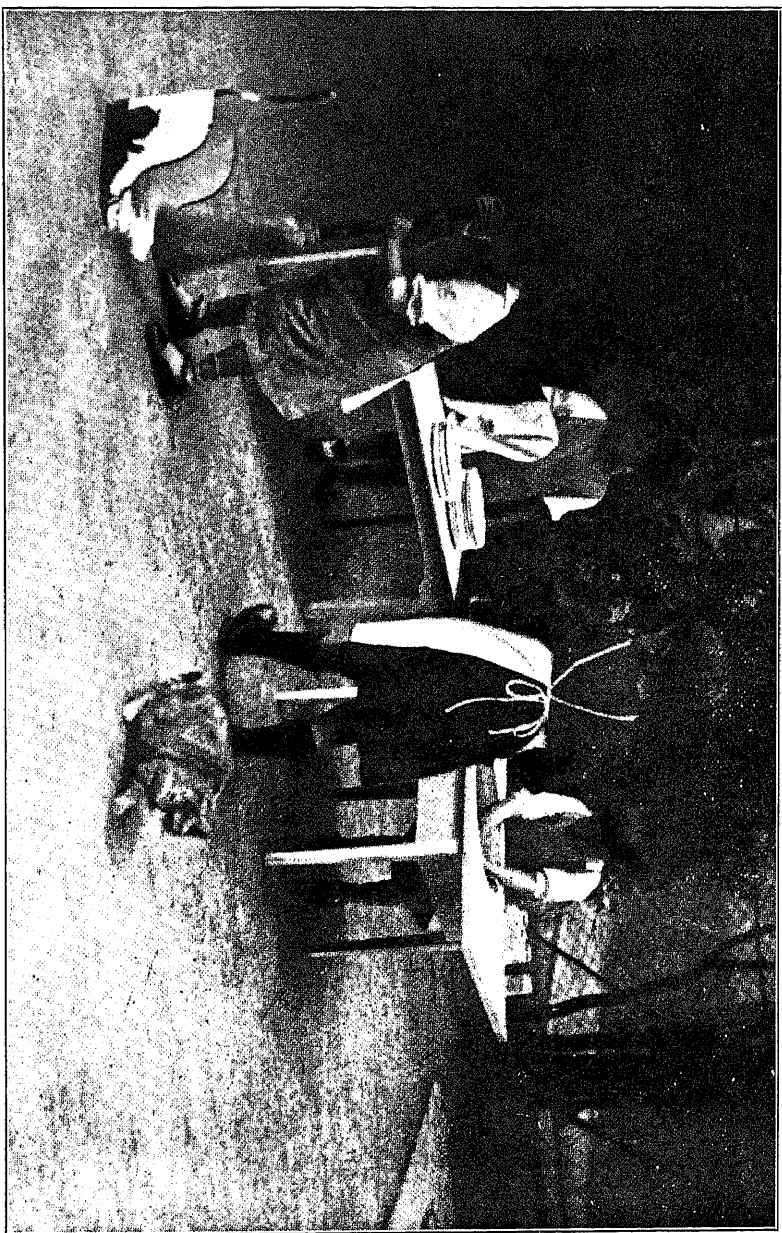
東京府下 落合町下落合一、三八八

目白幼稚園保姆養成所

所長 和田 實



モンテッソーリ幼稚園——イタリー國ミラノ(其一)



モンテッソーリ幼稚園——イタリア國ミラノ(其二)

幼 児 の 教 育

昭和七年二月

春待ち日記

迎へるよりも、況して追ふよりも、樂しきは待つ心である。

今こそは春を待つ日。

待つ心には、忍びよる軽い足音も、それなき微かなけはひも、目よりも耳よりも先づ胸に知らるゝ。

春はもうそこへ。

君の小さき手帳に、近づく日々の春をノートし給へ。——風やわらか。水ぬるむ。土のうるほひ。木の芽のふくらみ。子ぎもの肌。女の子の髪のつや。すえいたあの明るい色。輕き細あみ。

やがて花。花。花。待ちければこそ親しき春

繪本唱歌の編纂に就て

日本教育音樂協會會長 乘 杉 嘉 壽

一昨年春、本會會長の職について以來、教育音樂の發展改良については、出來得るだけの力を注ぎ度いと思ひ、先づ小學校の音樂教育の方に考を向けたのであつた。小學校の唱歌教材としての現行の文部省編纂、尋常小學校唱歌は、編纂以來既に二十年以上も経過して居り、その間、一度も改良が加へられて居ないので、實際教授に當る人達は、他の教課、もしくは教材の進歩に比べて、非常に取り残されて居たので、自然、他の正しくない教材がそこに侵入して來るおそれあり否、大體そういふかはしき教材によつて、吾が唱歌の教授が亂されて居る様な事もあつた様のわけで、尤も急を要するのは尋常小學校の唱歌の材料を改め度い云ふ事であつた。で、この考でしばしば文部當局を訪れ、種々かけあつたのであるが、いろ／＼の事情上、そう急に出來さうもない事をたしかめたので、非常に微力な會ではあるが、之が自分の會長就任の上に與へられた第一の、そして最初の使命なる事を思ひ、あらゆる困難を戰つても、その企てを實現しやうと決心したのである。

而してその計畫を實施するについては、先づ歌詞の新作もせねばならず、もこより作曲は凡て新にする云ふ事が、必要であるが、就中この歌詞を新にする云ふ事は容易でないのであるが、廣く現代の有名な作家達からお願をしよう云ふ事を企て、之に著手して見たのである。扨て、歌詞は集つて來る、したがつて、その採否なり、當否なりを審査して行く中に氣付いた事は、自分が考へて居た學年にあてはめるよりも、むしろ之は低い學年か、高い學年かの何れかにあてはめ

た方が適切な様のもも出て来るし、又作曲に於ても同様の事が生じて来て、一つの歌を作り上げるのに、いくつかの作歌ミ、作曲を數部作り代へるミ云ふ必要に迫られたのである。初め全學年を通じて各學年十五曲ミし、合計九十曲を作ればいゝ筈であつたのに、以上の様なわけで百二十も、百三十も作らねばならぬミ云ふはめに陥つて、想像以上の困難に出會つたのである。

併し、この仕事が段々緒について來た際に頭に浮んで來たのは、小學以前の幼兒に對する唱歌の問題であつた。申すまでもなく、音樂教育は出来るだけ早く始めるのが有効であつて、殊に、幼兒及び小學校低學年に於ては、この教課の重要さは他の教課に比べて勝るミも劣るものではない。即ち、教育上、最も重要な地位に立つものであるから、その教材の選擇については最も慎重であり、適切でなければならぬミ思ふたのである、それで小學校ミ同一の方法で、幼稚園に對する教材の編纂をもくろんだのであるが、扱て著手して見れば困難は更に倍加して來たわけであつて、この仕事を始めて以來、毎年の春には、作歌、作曲の勞銀を拂ふミにも追はれて、既に數千圓の借財ミもあり、おしまひには誰も貸して呉れぬので、自分の金まで持ち出してしまつた様のわけである。それも非常に些少なお禮であるので、あまり威張つてもお願出來ないミ云ふ始末である。之が政府の事業ミなれば、少くも數千、數萬の巨財を要するわけであるが、吾が教育音樂協會役員の、犠牲的な奉仕によつて尋常小學唱歌の編纂の見込はついたが、幼稚園の分は非常に必要ではあるが、物質的な事情からして、絶望の所まで立ち至つたものであるから、最初は、しばらく時期の來るまで見合せるの餘儀なきに至つたのである。併し同志の者は、何れも教育者であるので、折角のこの仕事を教育的に、又有意義にするミ云ふ事は、吾等の理想であり、念願であるから、むしろこの際、更にその犠牲を重ねて、一舉にして幼稚園の部も編纂し終らう、ミ云ふ話合が出来、既に春夏秋冬の四編のものは全く完成して、先づ最初に時期の關係上、春の部を刊行したのである。

過去二ヶ年のこの勞苦を顧みて、之に關係せる數十名の作歌、作曲者、並びに其の審査及び事務に關係せる人達の勞苦の容易ならざるを思ひて、うたゝ感慨に堪えざる次第である。元來この幼兒、又は少年少女の教育に就ては、この音樂教育が重要視されない事は、頗る遺憾な事で、現に尋常小學第四學年までの兒童には譜を見せぬ事になつて居る。音樂の先進國たるドイツを、この數ヶ月前に見て來て、今現に吾等が編纂した繪本唱歌と同じ様なもの、即ち、歌詞並びに、曲譜の一本に納めたるものを、ドイツでは、立派に幼兒に讀ませて居るのである。小學校の兒童に至つては、讀譜の出來ぬ様なものは一人もない有様で、教育の立前から見て、非常に吾國の音樂教育なるものは時代後れのものであると云ふ事を痛感したのである。で圖らずも今回自分達が計畫した事柄が丁度之等先進國で既に實行してる事を見てより、之が直ちに吾が國に於ても實行する様な氣運になつた事を非常に喜ぶものである。吾等が過去二ヶ年間の勞苦は、甚だ貧弱なものではあるが幼兒教育に關係せらるゝ各位の熱心なるお力添へによつて、廣く御利用願ひ、その教育の上に、大なる効果をあけるゝならば、本協會の満足之に過ぐるものなく、吾々は各位の誠意に對して深く感謝すると同時に、更に進んで吾が教育音樂の改良と進展のために、更に々々、力を注ぐ事をお誓ひしたいと思ふ。(文責在記者)

以上のお話にございます様ないきさつを経て、昨年春、漸く具體的な準備にさりかかりました。先づ役員を、音樂家、童謡作家、幼稚園實際家、體育家等、幼兒に關係深い人々の中より定め、先づ幼稚園唱歌編纂に關しての方案を立てたのでございました。それからはこの方案に従つて、著々その目的に進んだのであります。私共は全國に澤山の隠れたる童謡詩人のある事を信じ、そういふ方々の寄稿を期待して、切の日を待つて居りましたのに、意外にも應募歌詞は極めて少數で、ミてもお話にならないのでございます。で、之はまだこの募集の事が全國幼稚園に行き互らないのかミ

思つて、再募集をしたのでございましたが、毎切の日になつても以前として、應募者が少く、全く落膽してしまつた様の有様で、少數集まつた歌詞にもなか／＼適當なものが得られず、殆んど原形を失ふまでに訂正したのでありました。こんなわけで、最初もくろんだ二作歌、作曲は汎く小學校教員及び幼稚園保姆等より募集するこゝに云ふ事は見込が立たなくなつたわけでした。でその後は専ら、童謡作家として適當な方にお願をして歌詞を得たのでございました。こうして歌詞を得たものは云へ、幼兒に適當と思はれるものが少く、かなりの訂正を加へたのでございました。扱て作曲に云ふ段に至りましては、實に困難其極に達したことも申すべく、一歌詞について、少くも五六人の適當な作曲家に作曲をお願いした始末で、その集つたものを役員一同で協議審査訂正をして漸く一曲を定めるに云ふ有様で、全四十曲の歌曲の撰定にはこんな出来榮えではございますが、名狀も出来ぬ苦心を續けたのでございました。

全歌曲四十を便宜上、各々十曲づゝ春夏秋冬の四季に分ちました。

春の卷

- 一、テフテフ
- 二、タンポポ
- 三、ママゴト
- 四、エンソク
- 五、コヒノボリ
- 六、アカチャン
- 七、マリナゲ

八、オヤツ

九、オニゴツコ

一〇、ジドウシヤ

夏の卷

一、テンノウヘイカ

二、オヒサマ

三、チューリップ

四、キンギヨ

五、アサガホ

六、カミナリサマ

七、ミヅアソビ

八、スナアソビ

九、オウマ

一〇、ナミ

秋の卷

一、ヒヨコ

二、ダルマサン

三、ウサギ

四、オツキサマ

五、カケツコ

六、オヤスミ

七、ブランコ

八、オミヤゲ

九、ナハトビ

一〇、タンジヨウビ

一一、ユキ

五、マメマキ

八、ツミキ

冬の巻

三、オカアサマ

六、ギツコンバツタン

九、オヒナサマ

一、オシヤウグワツ

四、ピアノ

七、オサル

一〇、ユメ

尙ほ御参考までに、幼稚園唱歌編纂に關する方案、を記載いたします。

幼稚園唱歌編纂ニ關スル方案

幼稚園唱歌集ヲ編纂スルニ當リ次ノ要項ヲ參考トスルコト。

一、一般的標準

- 1、歌曲ハ兒童ノ持テル音樂ノ創作的受容的能力ヲ進歩發展セシメ得ルモノタルベキコト。
- 2、曲譜ハ兒童ノ遊戲ト作業、律動的運動及ビ唱歌ノ結合ヲ圓滑ナラシムルモノナルヲ要ス。
- 3、歌詞ハ特ニ兒童ノ談話ソノモノヲ用ヒ、其ノ發音ヲ淳化セシムルモノタルヲ要ス。
- 4、歌詞歌曲共ニソノ内容、形式ニ於テ多種多樣ニ涉リ、兒童ノ内の生活ヲ美化セシムルモノナルヲ要ス。

二、曲譜ノ標準

- 1、曲譜ハ低學年ノ程度ノヤ、低キモノタルベキコト。
- 2、特ニ「リズム」ヲ明瞭ナラシムベキコト。
- 3、遊戲ト作業ト律動的運動ニ適合スルモノタルベキコト。
- 4、兒童ノ歌ヒ易キモノタルベキコト。

5、長調ヲ本體トスルコト。

6、拍子ハ二拍子、三拍子、四拍子ノ三ツヲ用フルコト。

7、音域ハ尋常一年生ノ音域ヨリモ一層狭キモノタルベキコト。

8、調子、音程ハ隨意タルベキコト。

9、曲想ハ輕快、優美、或ハ活潑ナルモノタルベキコト。

三、歌詞ノ標準

1、歌詞ハ尋常一年ノ唱歌ノ程度ヲ參酌シ長キニ失セザルコト。

2、兒童ノ日常使用スル言語ヲ本體トシ、其ノ發音ヲ美化セシメ得ベキモノタルベキコト。

3、歌詞ノ題材ハ兒童ノ生活ニ屬スルモノニシテ、コレヲ美的ナラシムルニ適當ナルモノタルベキコト。

四、其他

1、作歌作曲ハ汎ク小學校教員及ビ幼稚園保母等ヨリ募集スルコト。

2、遊戲用曲ハ全ク唱歌曲ト區別スルコト。

3、幼稚園唱歌ノ取捨選擇、及ビソノ取扱方ハ教授者ノ自由ニ任セ得ル様注意セラレタキコト。

4、教材ノ取扱ニ就イテハ、聽音練習、リズム的運動、遊戲、兒童歌、兒童遊、即興曲等ノ各者ト密接ナル結合ヲ保ツ様考慮セシムル便宜ヲ與フルコト。

5、唱歌曲名原案

オカアサン

アカチヤン

オタンジヨウビ

オヤツ	オヤスミナサイ	ユメ
オキシヤサマ	オニゴツコ	カケツコ
ナワトビ	オマ、ゴト	オスナアソビ
ブランコ	ギツコンバツタン	ツミキ
オシヤウグワツ	マメマキ	オヒナサマ
コヒノボリ	ウサギ	テフテフ
オウマ	ヒヨコ	アサガホ
タンボボ	チューリップ	ジドウシヤ
オツキサマ	カミナリサマ	ナミ
ユキダルマ	スゴロク	太キクナツタラ
オマツリ	スベリダイ	マリナゲ
エンソク	ミヅアソビ	オサル
オミヤゲ		

(作歌作曲の都合で、原案通りならなかったのもございます)

入學檢定の所感 (二)

東京女子高等師範學校附屬小學校では一月二十六、二十七日兩日に本年度の入學檢定が行はれた。以下は檢定に當られた方々の所感である。

尋一入學檢定所感の斷面

齋 藤 英 夫

一

私は子供の思考判斷もいふべき問題に就いて檢定して見たのである。其の問題は次の二問である。

一、たけ子さんは脚をけがして早く歩くことが出来ませんから、今朝も學校へ早く歩いて來ました。

二、學校はきのふお休で誰も來てゐません、きし子さんはきのふ學校へ來て、皆さんと面白く遊んで歸りました。

これを次のやうにいつて聞かせたのである。

「先生が今お話しをします。お話しの中におかしい所があれば、きこがまちがつてゐるかいつて下さい」「一度でわからない子供には二度くりかへしてやつたのである。

二

私のこの問ひに就いて問ひの不明なものが大部あつた。判らないといふよりも、私より前に子供の記憶力を検定した方があるので、子供はそれさまちがつて、(まちがつたといふよりも、早のみこみしてよく聞かないらしい)鸚鵡返へしに答へる者も可成り多くあつた。終始黙りこんで一言も答へず「まちがつてゐませんか」「聞いても何も語らないといふ兒童もある。黙つてゐるからわからないのかと思つて」「まちがつてゐませんか」「聞けば」「まちがつてゐる」「口を開きはじめる者もあつた。」「脚をけがしてゐるから早く歩けない」「こはつきり答へる子供も相當に多くあつた。(今は夫等の統計に徴していふことは出来ないが)然しはつきり答へる子供でも「脚が痛いから」「いふものが多くあつた。又「早く歩けない」「いふよりも單に「歩けない」「こ答へたものが多く、之では私として子供の思考判断を検定する上に満足はしなかつたのである。滑稽と思はれるのは、(子供の心境としては尤もかも知れぬ)「お医者さんへ行つて繃帶をしていた」「脚が痛くても我慢して歩いて來た」「いふのもあつた。之は寧ろ女兒に多く、男兒は判らなければ判らない。ちがつてゐないと思へばちがつてゐないこ答へるのが多くあつた。

三

第二問に關しては大體第一問に現はれた傾向と同様であるが、第一問よりも第二問の方が稍々成績が良好であつたやうだ。然し第一問の判らぬ者は第二問も判らないといふ共通性があつた。

「學校が日曜だといふのにこし子さんが學校へ来るのはおかしい」「こいふやうに、子供は大抵「日曜」「こいふこをいつてゐる。中には「學校は休ですから行つてはいけません」「こ訓誡めいていふ者も、二、三名あつたこ記憶してゐる。稀に「こし子さんは一人で學校へ來たのだから面白くない」「こ答へるものもあつた。

以上は此の種問題に關して検定した私の所感の一端であるこ御承知願ひたい。

記憶力査定後の所感

鷺 山 さ ん

きのふ花子さんは千代子さんのおうちへ遊びにゆきました。千代子さんは風邪をひいて寝て居ましたので、花子さんはおうちへ歸つて本を読みました。

上記の話を一回ゆつくり話して聽かせ直ちに記憶を辿つてその話をさせて見ました。その結果何の苦もなくすらくと話せた子供もあるし、何が何やらさつぱりわからなかつた子供も澤山ありました。唯之だけのテストでありながらその子供の素質が種々の方面から首肯されて、幼稚園教育上の参考にしていただき度い事を二三發見いたしましたので左に記述させていただきます。

1、意味構成の力Ⅱ假令簡単なことながら纏つた一つの意味を耳から聽き入れつゝ頭の中でその意味を構成してゆく力がなければとてもこのテストには合格しえないのであります。漫然と耳にきこえたこといふだけでなしに、聞くと共にその話の意味を構成してゆくこと、之は非常に大切なことでこの力があつてこそ始めて所謂記憶といふ作用は生じて来るものでありませう。物心がつく頃から注意せねばならぬことではあるが、幼児教育に於てはこの點に注意して幼児に應對をしていたゞき度いと思ひます。いゝ加減な聽方でなく、丁度物の姿が明瞭に鏡に映つるやうに明瞭に聽かせてゆかねばならぬものであります。

2、發表の力Ⅱ正確に構成された意味を秩序正しく發表してゆくこといふ事にも練習の必要を大いに認める次第であり

ます。折角構成された意味が發表力の拙いために話す事が出来ぬといふ事は大人の世界にもよくある事でござい
ますが誠に残念な事であります。一旦聴き入れた所をそのまゝ發表させるといふ機會を多く與へないために、所謂「思
ふこそが言へない」こいふ型の子供にし勝ちであります。發表こいふことは受納した知識を確める事でありますか
ら素質は更に練磨されて將來に伸びる一階梯になります。

3. 注意力Ⅱ檢定の室には數人の委員が種々の能力を査定してゐましたのでなか／＼騒がしい事もありました。然し
注意を集注しうる子供は只管に私の顔を見詰め、語られる意味に全心を集注して居ります。散漫な子供は八方に心
が散つて居ります。随つて大切な意味の構成が不可能になり勝ちになります。注意散漫の幼児には特別に心をかけ
て何ぞか注意を集注させる機會を與へてゆかねばならぬものと思ひます。

4. 發音Ⅱ所謂甘へた發音をする子供は今度の檢定にはあまり發見いたしませんでした。それでも拗音が混ざつた
りラ音がダ音に變化したりすることも幾分かはありました。甘へた發音をする子に限つて意志や動作がしつかりせ
ぬ例もよくありますから、言葉の發音によく注意する事も必要な事と思ひます。

以上は特種小學校への入學準備であつては價值は半減される憾みがあります。心身保育の内容として御心掛けいただき
ます事は小學校教育を擔當する私共の希ふところであります。

數へること

岩 下 吉 衛

一

數へるといふことは、言葉——一・二・三・四……などの數詞と、實物——蜜柑、お菓子などの様なものと、一つ一つ組合せることです。それ故數へる爲には、

第一 言葉を知つてゐること

第二 實物があること

の二つが必要で、其の上に

第三 言葉と實物が一つ一つ組合せること

が出来なくてはなりません。

今年數へ年七ツ又は八ツになる子供百七十四人について調べました、結果によると、一から二十までの言葉を知らない者はたつた二人しかありませんでした。この位までは出来るのが普通に發育した子供の狀態でせう。併し言葉と實物が一つ一つ組合せることが出来ない者が八人もありました。その中一人は言葉と實物が少しも組合せることが出来ないで、言葉は言葉、實物を動かす手は手で全く別々に働いてゐました。これは數へることの第三の條件にあはらないもので、多分平素數へることの第二の條件を缺いて、只言葉だけを習つたり、聞きおぼえたのでせう。

他の七人は、數へる時に、實物の動かし方が無秩序で不整頓であつた爲に、前に一度數へたものを又數へたり、或實物を數へ落したりした爲に、正しい結果に到着しないのでした。

物を數へるには、繰返したり、數へ落したりしてはいけません。それにはもう數へた物とまだ數へない物との區別をはつきりさせておかねばなりません。然るに實物を見た時に、單に目で數へてゐて實物を手に取つて動かし、よく之を整頓しておくといふことをしない子供が殆んど半数もありました。これでは正しく數へるこゝが出来ない心配がありました。

中に只一人、先づ實物を一列にチャンと並べて、さてそれから指をついて數へた子がありました。之は手間はくれましたが正しく數へるにはよい方法です。

數へる言葉には、ヒトツ、フタツ……といふのこ、ヒー、フー……といふのこ、一、二……といふのこ三通りありますが、一、二といふ者が非常に多かつたのは、日頃の手にゐる實物の影響によるものでせう。ヒー、フーといった者はたつた一人でした。

一體鉛筆をかく繪本をかく畫用紙などは、一本、二本、一冊、二冊、一枚、二枚といふ様に、一、二といつて數へました、蜜柑をかくごまをかくお菓子などは一つ二つ三といつて數へます。そうして、お手玉つきをかく、羽根つきをかく、ジャンケン遊びをして走るをきなどの様に、忙しく數へなければならぬ時には、一、二をかく、一つ二つ三をかくといふ様な言葉の多い數へ方は出来ませんので、ヒーフー三といつて數へます。何れにせよ、實物を用ひて、それを數へるをき、數へるに使ふ言葉をおぼえ、實物を言葉が正しく組合さるものです。

學者の研究によれば、満六歳に達した兒童は、七つ以下の簡単な計算は出来るものであるこの事でした。抑も計算は、實物を用ひないで、或は言葉を聞いたり、或は數字を見たりして、數へたのと同じ結果を求めることで、さうしても數へるこの後に出来るものでした。

蜜柑を數へるとき、二つ三つでは五つになつた、鉛筆を數へるときも二本三本では五本になつた、畫用紙を數へるときも一枚三枚では五枚になつた。この様なことが、燕のとき、さんぼのとき、お菓子、バナ、のとき、其の他澤山の場合に經驗して、それを歸納し、それを抽象して、どんなときでも二二三では五になるこいふ様に進んで参りました。この最後の精神作業が計算でした。

それ故計算は

第一 澤山の事實を經驗し、多くの實物を數へるこい

第二 經驗した事實をおほえてゐるこい

第三 同一の結果となる多くの事實から、その結果を抽象するこい

の三つの階段三つの心の働きがあります。

實物を數へる修練をせずに計算法をおほえるこいが出来ないこいは、先に申述べた通りでした。その頃に大切なこいは物おほえのよいこいでした。物おほえの悪い子供は、過去に於て折角經驗した事柄を、跡かたもなく忘れて了ひますから、それでは、抽象する材料がなくなつて了ひますので、計算こいふ心の働きにまで進むこいは出来ません。

さてよくおほえてゐた多くの事柄から、違ふこいは捨て去つていつも同じ結果になる所だけを抽き出して、始めて計算するこいふこいが出来るやうになるのでした。

今年は、二つの数の和が七以下の寄算ミ、七以下の数から、それよりもつミ小さい数をミりのける引算をして見ました。固より抽象して一ミか二ミいふ数の言葉では無理なので、お蜜柑ミかお菓子ミかいふ物の名を言つて子供の過去の経験を思ひ出すやうに致しました。

併しこれを計算によつてお答の数をお返事して子供は僅かに四五人を出でません。大抵は両手を出し、指を折り、之を數へるには脣まで使ふミいふ有様で、まだ數へるミいふ域を脱しないのでした、これは尤もなミで、又それ以上を望むのも無理でありませう。

そこで入學當初の子供は、實物を得られない時は、之を指にかへて致します、それから、實物を思ひ浮べて、數へます、最後に、結果を記憶してゐて計算しました。

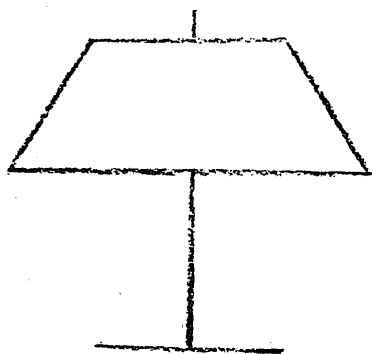
その途中で指を使ふ仕事が入るミ中々之がぬけられません。指を使ふミ必ずしも悪くはありませんが見苦しいし又手間がこれです。

指を使ふのは要するに、餘り早く實物をはなれるので、苦しまぎれに手近な指を使ふのでした。それ故、成るべく長い間、成るべく多く、實物を用ひて數へるミいふ仕事をしておけば、却つて指を使はずに、數象を數へるやうになり、計算が出来るやうになると思ひます。

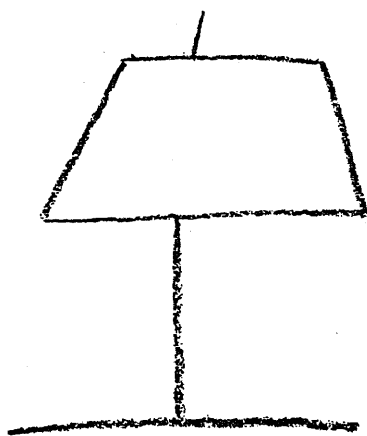
繪の檢定について

岡 田 千 代

幼兒。ほんの物の解りかけたばかりの子供であるが、子供は本當に偉いもんだと思つた、そして主觀的に成り勝な私の檢定は實にむづかしい事だと思つた。



第一圖



第二圖

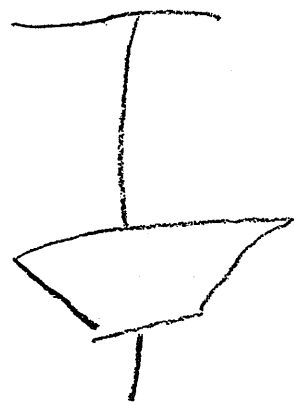
第一圖は問題の電氣スタンドの手本である。

第二圖は理知と感情が一致した優れたものである。

先づ姿勢を正しく手本の圖をよく視て此れは何であるか、何を描くのか、どこから描くか云ふ事を了解して、

判然とした意識で自信をもつて描いたものである、此れには子供の魂が一本／＼の線の中に動いて伸び／＼して力強く見える、どこまでも自分で思ふところまでやる云つた氣持で出来上つてから最う一度見比べたのである。

第三圖はこの時代の子供の心理的特長云ふが、三圖の様に物を反對にしかも安々に描き表はす事の藝度はすばら



第三圖

しいものである、多分自分に一番近いものから順に先きに描いたからだらうと思はれる。

線の味から云へば感情的で中々面白味のある線であるが、こんなのに限つて取つ附が早く、見ながら描く云ふ態度で自信のない描き方をして依頼する氣持が充分に見えるのである。線は感情的であるが腕が伸びてゐないのが多い。

第四圖は、あわてゝ充分に手本を見ないで、いきなり筆を取る、そして唯常識的に最後までほごんご見ないで描くのが多い、それで自分がまちがひを描いたことも氣つかないのである。

したがつて線には目的がないが、かなり自由に手を動かす、意氣地なく腕が動かない云ふのは少なく、無意識に描く云ふのである、したがつて之れは何であるか云ふ事も良く解つてゐない、以上大體三種に分けられるやうである。

* * *

男兒は此の圖を見て飛行機だ、雨傘だ、植木鉢だ等云ふ、女兒はお家だの洋傘だの云ふ、皆夫れゝ自分の生活經驗によつて物を理解しやうとする傾向が見える。

又男兒と女兒を比べて見るに、形が整はなくとも何かを受ける、魂の動くのは男兒である、女兒は美しく上手に描うにするから小さくまごまつて何等動く精神が受取れない。以上二つの事がらは大に考へさせられる諸點であつた。

ヴィスコーズ會社女工寄宿舎

宇佐美 けい

同會社内の托兒所に就ては前號に極ざつて記載致しましたが、その構内にある女工の寄宿舎を參觀させて貰ひましたので、大して幼児教育ミ關係のある事ではありませんが、其施設、また女工の日常生活を實際に觀まして興味多く感じましたのでその概略を御紹介いたします。

構内に男工の寄宿舎もありますが全然別棟で、可なり離れて居ります。

女工の寄宿舎は建物も可なり古く決して立派ではありませんが、現在五百人の女工が寄宿してゐる大きい建物であります。其寢室は兵營式で六十人位のベッドが一室に並んで居ります。鼠色の毛布で餘りきれいではありませんが、眞白なシーツミビロケース、清潔にして整然たるものであります。女工の修養娛樂の機關も備つて居ります、チャペ

ルがありまして朝夕の禮拜が行はれます、娛樂室にはステージがあつて芝居、活動寫眞等を常に催すといふ事であります。食堂、炊事場、洗濯場も廣くて清潔であります。その他に醫療室があり、尼さんの質素な部屋があります。庭も相當に廣く、畑もあり女工が楽しみに花造り耕作をするミ申します。休みの女工二三十人日陰で休息をして居りました。その他に手藝、裁縫をしてゐる數人がありましたが其處には尼さんが手をこつて教へて居られました。女工の日給は一日十五リラ（一リラ十二錢弱但し其當時で寄宿の食費ミその他一切が一日五リラといふ事です。女工は自分の身の廻りの事ミ自分のものミ洗濯をするだけで、炊事は女中が致します。伊太利は一日八時間勞働國で日曜日は休みであります。然し時間制になつて居りますので一

週四十八時間さいふわけですから、働き人の希望により一日九時間働き半ごんの日を一日作る事も出来る制度になつて居ります。

女工の健康状態に常に細心の注意が拂はれ、毎日醫者が見舞ふばかりでなく、此處にも、献身的奉仕の生活をしてゐる尼さんが數人居られて、女工の教育、衛生上の綿密なる注意と監督の任に當つて居ります。あの純白の頭巾をかぶり裾長の黒のガウンを着て常に、にこ〜にこ、せまらず、あせらぬ姿は世にも氣高くながめられた事であります。

尙下位氏から聞きた此國に於ける教育施設の一二を附記いたします。

近來裸體學校が非常に盛でありまして、また實蹟をあけつゝあるさいふ事ではありますが、其方法も極めて徹底したもので、暑中は全くのブローズ一つで、授業も雨天以外は全然屋外でいたします。寒中は戸内にストーブを焚きながら窓を開いて裸體、酷暑の季節だけ薄いものを着るさいふ事であります。政府は暑中休暇の臨海、林間學校を獎勵し

十萬の學童がこれに参加してゐるさいふ事でありますが、更に將來は中小學兒童全部を山、海に暑中二ヶ月過ごさせる事を理想としてゐるようであります。尙それ等のキャンプ生活にて兒童は各自親の職業の實地練習をさせられます。例へば、大工の子供は大工、左官の子は左官といった風であつて、その他郵便事務を始め一切の自治團體を組織して全く獨立した一つの社會生活を営ましむる事を實行してゐるさいふ事ではありますが、要するに伊太利政府は現在、兒童を勝れたる健康の持主とする事に全力を注ぎ、自然母性保護にも亦身をいれてやるさいふわけであります。

カルパテルラ托兒所

これはローマの街外れの貧民窟近くにある托兒所であります。

此處には家の無い人の爲めの大きいアパートメントが現在三つ完成して居りますがその中の一つに托兒所があるのであります。現在百人の赤ん坊から學校までの幼児を

收容して居りますが、皆眞白なエーブロンをかけてすがすがしい装をして居ります。此處にも保姆の他に尼さんが世話をして居ります。廣いバルコニーで皆遊んで居りました。食堂、午睡の部屋も相當に廣く去年五月（一九一九）に落成したのだといふ、極めて新しい氣持のよいものであります。晝寢の部屋のベッドが中々面白く出来て居ります。それは四圍の壁に造りつけたもので不用の時は壁に添ふて疊んで仕舞ふ事が出来たので、部屋の利用が出来るし、また始末のよいものだといふ事であります。幼稚園らしい設備は殆どありません、食堂にはニュームの皿ミカップが並んで居りました。明るい清潔な點で極めて衛生的な托兒所であります。

此アパートに住む、公立小學校に通學する女兒に、放課後歸宅の後集めて種々の手藝を教へる部屋があつて、現在は學校は暑中休暇であるが丁度それをしてゐるさいふので一寸のぞいて見ました。尼さんが一人で十歳前後の二十三人の女兒に教へて居りましたが、ドロシウワークをする者、小さい着物を縫ふものなど皆嬉しそうに一生懸命針

を運ばせて居りました。種々成績品を見せてくれ、その後で唱歌を聞かせてくれました。それはファッショの黨歌で「青春」さいふ歌だといふ事であります。

托兒所は朝から午後七時半頃まで預るさいふ事であります。

アパートメントは中々立派なもので私の見た一つは風呂場があつて一週間で完成するさいふ所でした、風呂が五つあつて、他の二つのアパートの人も皆此處に來て一週間に一回入浴の出来るやうにするさいふ事であります。

一つのテレスのついた部屋を見せて貰ひましたが中々よい部屋でした、ベッドの他に戸棚が一つあるだけです。テレス附は部屋代一日三リラ（日本金四十錢）であります。一つの建物には各室の他に大きい料理場があり、食堂がある、洗濯場があります、食堂は一等二等三等あつて食物は食券で自由に選擇することが出来ます、食堂で食べても亦各自の部屋にこりよせる事も出来ます。一等の食堂などは、テーブルクロスをかけて、中々ちゃんとしたものがあります。食堂の入口に今日の料理の品目と價格が書いて

居りました。

牛肉の煮附 ニリラ。ビーフステーキ ニリラ

果 物 六〇毛。葡萄酒四分の一リットル八〇毛。

コーヒー 八〇毛。等

洗濯場が中々廣くよく出来て居ります。二十人以上一度に出来ます、消毒する設備も別にあります。

醫療室、續いてお産をする部屋、産婦室、嬰兒室、皆別であります。若い醫師が親切に案内して説明してくれました。此處では外來の患者も診察をするこいふ事であります。この建物の一家族毎に健康表こいふ様なものが出来てゐて、其家族全部の生年月日その他病歴に就て記入したものが出来て居りますが中々行き届いたものであります。

托兒所は勿論、その他の各部の仕事、或は炊事の方に皆尼さんが手傳つて居られますが、その事がこれ等居住者にぎの位多くのよき感化と指導を與へる事であらうと思つた事であります。

ウイン市立兒童預り所

其建物の立派である事、設備、その他の完備せる點に於て世界的に有名であります。

それは宏大な純白の建物でありまして中は眞白なタエルバリで細い黒い筋のはいつてゐる極めて美しいものであります。此處には住む家の一時無くなつた勞働者、また母親が病氣に罹つてゐる等の子を一時預ります。毎日二十人位の新しい兒童がはいり常に新陳代謝が行はれて居るこいふ事もあります。手續きとしては、該事務所に届け出で調査を受け、醫師の診断の後、病弱兒はその輕重、症狀に應じて適當の處置を受ける事になつて居ります。傳染病兒の爲めには隔離室があります。此建物の特徴として、建物の内部を完全に三つに遮斷する事が出来るやうになつて居りますので、萬一區劃の建物の中に傳染病が出来た場合には、完全に他との交通を斷つて獨立するここの出来るやうになつて居ります。大したものであります。

小兒の部屋に行く階段の正面に「赤ん坊は皆生きる權利がある」とこいふ意味の標語が大理石に彫刻してあります。全體で二百六十名收容し得るこいふ事ではありますが、

此建物の他に尙市内に二個所同様の者があるといふ事
あります。此處に四十四人の看護婦が働いて居ります。こ
れ等の婦人は皆三ヶ年の看護婦學校、或は保姆學校の卒業
生で立派な人達だといふ事であります。

受け容れられた兒童は醫師の診察を受け、健康兒は直ち
に地下室にある風呂場でお風呂を使はさせられます。

澤山お風呂がありまして、年長の女兒が手傳つて居りま
した。此處にある間は所定の着物に着かへさせられます。
六ヶ月未満の赤ん坊は母親と一緒に居る事が出来ます。其
間母親は嬰兒の育て方を學ぶそうです。丁度満一歳
位の赤ちゃんが皆食後で靜かにベツトに置かれる時間で
ありましたが、ベツトの上に立ち上つては尻もちをつく、
可愛い事つたらありませんでした。明るい清潔な部屋で
周到な養育をうけるわけであります。金を拂ひ得る程度の
人は一日六シル（日本金一圓八十錢）を支拂ひます。自然相
當な家庭の子供も居ります。生後から十四歳までの兒童を
預るので期間は三ヶ月を限度とする短期間のものであり
ますから其間の學校の事は別に問題にならぬと申して居

りました。また長期間預らねばならぬ事情の者は此處から
里子に出すといふ事であります。

——實習生保實日誌より——

ストーヴのそばで、コドモノクニをよんでゐた、
その文句の中に「心」いふのがあつた、それをき
いた信夫さん

「心つて何さ」

「誰にでもあるのよ」私、

みんなものか知つてる？きけば

「知つてらあ、心つてね、空氣の様なんだよ、ふ
わく／＼してるんだい」

「ちや、どこにあるの」

「そんなことわかつてらあ、お腹の中よ」

「みせてちょうだい」

「見せられないやい、見せてたまるものかい」

保育事項の分類に就て

目白幼稚園 和田 實

現行、幼稚園令施行規則第二條には保育事項を分類して左の如く規定して居る。

幼稚園の保育項目は遊戲、唱歌、觀察、談話、手技等とす。

之に因つて見るに、幼稚園に於ける保育事項は五つの確定された事項以外に、各幼稚園に於て、自由に採用してよいものがある云ふことを示して居ることが知れる。然らば、其「等」の字に含まる可き保育事項は果して何々であらうか。私は之に就いて全國の幼稚園が、何んなものを採用されて居るかを知りたいのであるが、其前に私の考へを述べて置いて頂きたいと思ふ。尤も、法令にある「遊戲」なる文字の意義の採り方に因つては、斯様な疑問を起したり、調べたりする必要はないものとなるかも知れないから、先

づ、話の順序として、法令上に於ける「遊戲」なる文字の意義を定めて置いてから、本論に入ることとせう。

扨て、法令上の「遊戲」の意義が何んなものであるか云ふに、之が廣い意味で云ふものではなくて、相當狭い意味のものである云ふことは想像される。何故云ふに、吾々が廣い意味で「遊戲」云ふ時は、幼兒の活動の全部を指して云ふので、幼稚園で遊ぶ幼兒の活動は其全部が遊戲と稱す可きもので、遊戲以外、嚴格な作業としての手技や觀察や唱歌や談話なきがあり得るものではないからである。若し、談話其他の項目が幼兒の遊戲でないとするならば現在の保育上に於ける理論や理想は根本から覆されることになるので、是は由々しき大事であるが、斯様な暴論を吐く人があらうと思へないから、従つて、法令上に於ける「遊

「戲」の文字は相當狭い意味のものに相違ないことは疑ふの餘地がない。然らば、狭い意味での遊戯とは何んなものか。是に就いても小學校令施行規則に云ふ所の遊戯と幼稚園令施行規則に云ふ所の遊戯とは多少其意味に於て異なるものがある様であるが、今は専ら、幼稚園令施行規則に就いて調べて見ませう。舊規則に據るに、遊戯と云ふのは歌曲に伴ふ動作遊戯表情遊戯等を指して居つたのであるが、新規則には是等内容に關する細い規定を皆省いて居る。省いては居るが、是は意味の限定がないと云ふだけで、矢張り從來慣行し來たつた意味に取つて差支ないものと思ふ。丁度、其他の保育項目たる談話、唱歌、手技等が從來の意味と同じである様に、因つて、茲では假りに「遊戯」と云はずに、「教育的舞踊」と云つても差支ない程に舞踊めいた、又、ダンスめいた遊戯を解釋す可きであると思ふ。即ち、法令上の「遊戯」の意味は音樂を切つても切れぬ關係にあるところの舞踊的のものであると云はねばならぬ。そして、此舞踊的遊戯が他の觀察、談話、唱歌、手技等と共に廣い意味で云ふところの遊戯の中に包含さる可きであると思ふ。

ふ。斯様に遊戯の意味を極めて置いて、扱て、是から愈々本論に入つて、所謂「等」の字の意味内容を研究して見ませう。

吾等が今日、幼稚園に於いて、觀察、談話、唱歌、手技、遊戯の五項目以外に果して、何をして居るであらうか、又、幼兒にしても、是等五つの項目以外に何んな遊びをして居るだらうか、今注意して幼兒の行動を觀察して見るに、第一に眼に着くのは、幼兒の飯事遊びである。是は明かに五項目の中には入つては居らぬ様である。之に類するものには種々の眞似遊びがある。動物園遊び、商ひ遊び、銀行遊び、郵便屋遊び、等々である。何れも社會事象の模倣を目的として遊ぶので、總括して、模倣的遊戯と稱するこゝが出来る。因つて、「等」の字の一内容として模倣的遊戯が擧げられる。次に、稍々發達した子供の遊ぶ所を觀察して居るに、小石を拾つて兩手の中には喜んで打ち振つて居る、暫くして之を片手の中に握つて、兩の拳を出して「何ちにあるか」と云つて石の「在りか」をあてさせる遊ぶをして居る。之に類する「あて事」遊びには「くみかくし」「茶

碗廻はし「ホワイゲーム」等々がある。是等は理智にたけた子供の悦んで遊ぶところのもので、之を吾人は理智的遊戯と呼んで居る。「かるた遊び」計算遊びなども、當然、此中に入る可き種類のもので、所謂「等」の字の一内容たる可きものである。次に、眼に着くものは、大積木を持ち出し、時には卓子や椅子の類までも運んで、大袈裟に家を作り、塀を作り、鐵道を敷き、城を築きながら遊ぶ。製作的の遊びに云へば云ふものゝ夫れにしては少し大袈裟過ぎる。手先の製作的の遊戯を手技か手工か稱する可すれば、是は寧ろ、勤勞的遊戯と稱す可きではなからうか、其の興味的心理状態から考へても、製作的構創的興味ばかりでなく、大きく且相當重量のあるものを運び來つて、大仰に、空間を占めるものを造るところに興味があるので、是等は總括して勤勞的遊戯と稱す可きであると思ふ、之も亦「等」の字の一内容たるに相違ない。次に、最もよく眼に着くものは「粹登」に登つたり、木登をしたり、滑り臺を滑つたり、狭き渡り木を渡つたり、ブランコに乗つたり、するこでである。是等も法令上に於ける五項目の中には含まれて居ら

ぬ。吾等は此種の遊びを總稱して、運動的遊戯と呼んで居る。是も、亦「等」の字の一内容ではあるまいか。

以上、一寸見たところだけでも、「等」の字の中に含まる可き遊戯として、數種の遊戯を上げることが出来る。然して、何れも相當に教育的價值を有するもので、保育者の保育豫案の中に、可なり重要な位置を占むることの出来るものではあるまいかと思ふ。吾人は是等「等」の字の内容たる遊戯に就いて、果して、全國の幼稚園が如何なる程度に、保育案中に採り入れて居られるのだらうか云ふことを知りたいのである。熱心なる讀者諸君は其日頃實行して居られる所を發表して欲しいものである。

或は又、法令上に言ふ所の遊戯は、共同遊戯と自由遊戯とに分類す可きで、以上所謂「等」の字に含まる可きものも、畢竟、此自由遊戯に屬す可きものであると云ふ人がある。併し、此分類は遊戯其物の分類ではなくて、遊戯の遊ばせ方の分類に過ぎぬから、此議論は何等價值のない決論である。何故と云ふに、同一の遊戯でも、其遊ばせ方に因つて、或は共同遊戯となり、或は自由遊戯となるもので、

何等分類的價值を持つて居らぬからである。遊戲の分類は遊戲其物を分類せねばならぬ。保育項目の分類は此遊戲其物の分類から来る可きものである。

斯くの如く考へて来るに、保育項目は遊戲の分類上から見たゞけでも、相當に多分の方面があるが、吾人の見るところに因るに、尙是以上に必要なる保育項目があると思ふ。然らば其は果して何か。稽古か。作業か。否々。稽古でもなければ作業でもない。夫れでは何か。曰く。幼兒の日常生活其物である。換言すれば幼兒自身の動物的生活即ち衣食住に關する日常の習慣的生活其ものである。是は保育事項即ち幼兒教育の材料として其遊戲的材料に對抗するものであつて、極めて、重要に、且相當なる廣範圍に互るにこの教育價值、頗る大なるものである。保育事項として遊戲を上げるに必要ならば其訓育的方面を代表する材料として此習慣的方面を上げなければならぬ筈である。然るに、現行法令には此方面の事項を上げて居らぬ。小學校は修身科に於て訓育的方面を要約して居るが、幼稚園には之に相當す可きものがない。従つて、若し意地

悪く、皮肉を云ふならば、そして、若し又法令上に「等」の字が保育五項目の下にないならば幼稚園は單に、幼兒をして五項目に遊ばしむるだけば、何等の訓育的保育材料をも採用する必要がないもの云はれても仕方がない譯である。即ち、文部大臣は訓育事項を以て、保育事項とする必要なしと認めた云ふことになるのであるが、幸に「等」の字があるので、危くも、此非難から免れた譯である。して見るに、「等」の字の價值亦大なり云はざるを得ぬ。

要するに、現行法令上の保育項目としての五事項は幼兒遊戲の分類として不完全であるばかりでなく、保育項目として大切な躑け方の内容を閑却したもので、極めて不完全なる保育項目云はねばならぬのである。併し、實際の保育事業は決して心配することはない。法令に明示してないからして、怠ける様なことはなく、必要なものはちゃんと、實行して居る。朝夕、出入の挨拶、食事の作法、自治整頓の習慣、親切、博愛の行爲等仕付く可きものは確實に躑けて居る。今是等、現に、實行して居るにこの保育項目を如實に表示して見れば次の通りになる可きか。

一、遊戲的項目

觀察的遊戲、觀察、實驗、鑑賞、採集等を含む

模倣的遊戲

談話的遊戲

音樂的遊戲(唱歌、表情遊戲、舞蹈等を含む)

製作的遊戲(手工、手技、圖畫等を含む)

勤勞的遊戲

理知的遊戲

運動的遊戲

二、訓育的項目

生理的習慣(衣食住に關する動物的生活の基礎習慣)

言語的習慣

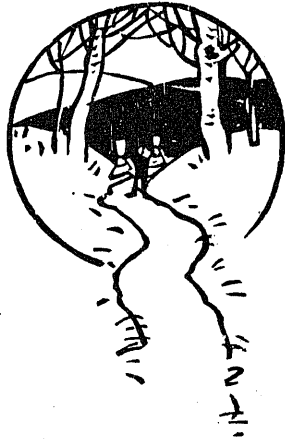
働作的習慣(行儀作法を含む)

精神的習慣(善良なる諸行爲の基礎たる精神機能の

習慣育成

幼稚園令施行規則の示す所の「等」の字の意味を保育項目の分類ミ云ふ眼から見れば此の如く、多くの意味を持つて居る。吾人は、切に、全國の幼稚園の保姆諸君に希望する。

各位の幼稚園に於ける、是「等」の字の意味の現物は何々であるかを、速に發表せられんことを。



貧しき幼児達の爲めに

東京府下日暮里櫻楓會托兒所 丸 山 千 代

幼稚園に働かるゝ多くの先生方ミ私共托兒所に居ります者ミの御話し會ふ機會が毎もほしいと思つて居りましたが、其の皮きりの積りで私から、我々の有つ悩みを當面して居る問題について聞いて頂きたいミ存じます。

私共の毎日取り扱つて居ります乳幼児の多くは、今生活線よりすつミ下に、即ち缺食兒級にあるもので御座います。其の生活を委ぬる父は働き度くも仕事がないのです。決して怠惰又は我儘ではないのです。打ち續く不景氣は智識階級も小市民階級をも傷ませて居りますが、取りわけても細民地區にある人々の上には來る日も來る日も悲惨なものミなつて居ります。

さる有名な女流教育家の昨年かの年頭の言葉ミいふのをきゝますミ「水引きかけしプレゼントこそなければ、太陽は隅々まで照らず、感謝せねばならぬ。」ミいふ意味のこミ

がありました、然し、今日も明日もミ家族餓ゆる時に、父心母心は我が子等の顔打ち眺めつゝ込み上ぐる泪の目は一握りの米の慾しさで一つばいでせう、腹滿されて始めて今迄氣付かざりし頭上の太陽に、日照りて暖かしミ抱く子に頼ずりするこミでせう。

此の人達の心は、仕事があれば仕事があればの此の願ひで一杯でございます。労働カードにのせてもらつてもやつミ一日一圓三十錢の仕事が月十回か或は數回ある丈けです。朝三時又は四時頃より職業紹介所へかけつけても、今日もなし明日もなしミ打ちつゞき、又労働になれぬ失業者は、行商、夜店、飴屋、屑屋、等ミ實に種々の仕事に變つて行きますが、何れもよくて五十錢多くは終日働いて僅かに二十錢ミいふのがザラなのです。

内儀さんたちも特別に内職の澤山ある地區に住む人は

別としてそれも極く僅かにて、今日ではもう内職を得るこゝが困難になりました。工場も會社も家内工業も縮少し閉鎖の増加し行く許りで失業者の増すと共に勞働賃銀が下る一方ですから貧しき者は愈々貧しさ加はり是等の家の兒等は父母の被護の下にあり乍らも殆ど總てが減食或は缺食の憂き目を見つゝあるといつてよいのです。此の傷ましき事實の前に世の父母達はゆるぎたいものでござります。殊に幼兒教育に任ぜらるゝ方々の御助力を願ひたいと思ふ次第で御ざいます。

此冬東京聯合婦人會が缺食兒の爲めの募金を企てましたが婦人の熱誠なる誠心は酬ゐられて一萬餘圓の淨財が集まりました。實に固き信念の下に爲さるゝ行爲は目的を貫き得るものなる事を實證されたものでしたが、其の内五千圓はすでに東京府下の小學校に於ける缺食兒童に當てられ二千圓は市内の小學生に、残る三千餘圓を以つて府市通じての缺食乳幼兒に當てらるゝ事になりました。之れによつて最も密集せる細民地區に在る三十ヶ所の托兒所や婦人會が、その地區の缺食乳幼兒に對し或はお米の配給

を或は晝飯の振舞ひを又牛乳の給與等、最も寒く、且つ親の仕事の少き、一、二月から三月にかけて實施する事になりました。然し僅かに一地區當り百圓、八十圓、六十圓の割りあてゝは一人食四錢を豫算として一ヶ月を保つには幾人の兒等に頒ちうるでせうか。此の地區に存在する托兒所が此企を遂行すべく調査をいたしました結果は實に困窮家族の豫想以上に多く、此の家は今日は糧あるも明日は危く彼の家は明日は仕事あるかもしれねえ明後日又其の次々仕事の見込みなし等、實に托兒所に二錢なり三錢なりの日謝をもつて、辨當もつて來られぬ悲惨な兒等多く、彼の兒を拾ひ此の子を捨つるの取捨を許さぬ、狀態であつて、病弱兒やトリ目や發育不完全な兒を見る毎に恒久的減食缺食兒である事を考させられますが、給食を必要とする乳幼兒の數は東京市府合せて三千五百以上四千に上るかおもはれます。府下雜司ヶ谷水久保を調査し來りし巢鴨在の西窓學園の若人がびつくりして語りかれます。一日十錢の殘飯にて幾人の家族が命を保つて居るこゝ、或る家に十二時に行きし爲め晝飯時で母子等が圍む臺の上には

唯一つのオカラの井がのせてあり子供は眞黒い手でつかんで食べて居つた事や、子供はパンを盗んで來たので他家から其の金を借りて支拂つた事や、子供たちはゴミ箱の中をあさつて困る話なき、涙なくしてはきかれぬ話で御ざいます。

私共は平素此様な事實を見つゝも、托兒所の内部の事とその附近の一部の事の爲に追はれて一般の乳幼兒に迄及びませんでした。が、此問題の重大なる事を思ふにつけ今は皆様に訴へねばならぬ時機が來て居ることもひます。貧しき家々の内二三の家族を實例として申上げます。

實 例

巢鴨宮下居住の某の家

昨冬妻が永の病ひの後チブスに罹つて入院し夫はその看護のため病院に付きゝり居る内つひに感染してしまひ、留守の家庭には十一になる長男と九歳の長女とが七歳、五歳、四歳、二歳の幼き弟妹の全生活を背負つて面倒を見てゐるが、元より永年に亙る主人の失業生活に一文の蓄へも残されず、親類よりのさゝやかなる補助と西窓學園及び

隣人達の同情で六人の子女は生活してゐる。

小石川區西丸町、コック某

月收僅かに二十五圓で妻君の他に六歳を頭に四人の子があり、而かも此の一月に又お産があることになつてゐる。之に主人の両親二人、つまり八人の家族が之で衣食してゐる。

府下雜司ヶ谷水久保居住某

家族五人なるも主人はテンカン病持ちにして頭が悪く持病が起りて、大火傷をし、ついに失業者となり、妻は三好野あたりより賣り残りのスシを買ひ入れ、之を行商し、一日平均僅かに十五錢位の收入で、一家の露命をつないで居る。子供は十一、九、三の三人であるが上の二人は就學することさへ出來ぬ有様である。

西巢鴨向原居住某

主人は失業狀態に近い自由労働者なる故に、朝三時おきて職業紹介所に行くも殆ど職を得るこゝなし。

妻は内職せしもその仕事充分になくして一家の收入一日二十錢なる爲、活動盛りのいたいけなる子供達は、二

兒は榮養不良になり、一人はトリ目となりて、眼もあてられぬ悲慘なる状態である。

日暮里某車力の家

夫婦の外に十三を頭に五人の子供あり、一時盛業だった夫の仕事も、文明機に壓倒されてしまひ、今では一日三十銭内にして、殆ど失業状態に近い有様である。妻は赤兒の爲に定職につくことを得ずして、知人の使ひ歩きから洗濯物、そのすきには薪を拾つて居る等の雜業にして、その收入は一日僅かに十銭にもみたない有様であるから、七人の家族は殆ど毎日粥をすゝつて居る状態であるから衣類はもとより寢具に於ても七人に對し僅かに上下四枚のみである。過日森村小學校の母の會より寄贈されし、寢具を二枚配附せしところ、大いに喜び、生れて初めての暖かい冬を過すことが出来る夫婦は感涙し乍ら、語つて居た。

次に是等の家庭の收支状態を見るため一例を記します。

某家(日暮里在住)家族六人、乳兒あり。

父、自由労働者(月收拾八圓)

母、靴下ぼぐしの内職(月收參圓)

四疊半一間

收入合計一ヶ月貳拾一圓

支出

水道料	二拾五錢	隣と共同して一人の名儀で使
家賃	參圓五拾錢	未納
電燈料	六拾錢	(十六燭)月おくり
汲取料	參拾錢	未納
薪炭料	壹圓貳拾錢	炊事火鉢用全部
米代	六圓貳拾四錢	(一升拾六錢三斗九升)
味噌代	六拾錢	
醬油代	六拾錢	(二升)
砂糖代	四拾錢	子供達がなめる。
副食物	七圓五拾錢	(日々の雜費共)
教育費	貳拾錢	(小學四年の娘の月謝)
理髮代	貳拾五錢	(主人)
風呂代	壹圓參拾錢	
煙草代	五拾錢	

日暮里の托兒所幼兒の家庭調査によつて得たるもの六

十家族の内、要救護家族三十戸について

一 家族數平均 五人四分

收入一月平均 拾一圓

(生活費全部)

巢鴨小石川方面同じく六十戸に付て

一家平均五人三分

收入一月拾七圓〇六錢

此の家計状態を見ましても其家族がたゞ生きるべき最低の要求をさへ満たしえぬ事は明らかです。まして母は乳呑兒母をかゝへ育ち盛りの子等の居る家として。

貧しき家の主婦の苦心は想像するに餘りあります。多くは着更への一枚もなく羽織さへ脱いで質屋に入れ子供は糧にかへねばならず、陽も入らぬ唯一室の片付け様もなき畳の上には仕事にあぶれし父は力なく臥して居り、子供は母の心も知らずしてお小遣ひをねだります。三四ヶ月電燈料はらはぬからこゝて罵りながら工夫は電燈線を切つて行きます。此貧しさこそ苦闘する母の心はどんなでせうか。

是等多くの母も吾等が女性の一人であります。尊き母の

役目に凡てを忍従しつゝある此の母達に私共は溫き心をおくりて慰め勵まし、共同奉仕、相互扶助、有無有通するの和やかさをもちたいもので御ざいます。今の貧しきは、昔の貧しきに比べて心身共に受くる影響は大いにおもひます。一家は全く向上の光りを失ひ兩親を中心にして子供等の上を包む一家の精神さいふものはかけをひそめ、のみならず次第に荒み行く計りです。此中に育つ多くの兒等を私共は唯止むなき事として傍觀して居る事は社會正義の上より又人類愛の上より許されぬことゝおもひます。生活苦にやつれ疲れし母に私共は總がかりで、力をかし其子等を立派に肥らせ眞直に強く愛らしく育てたいものでございます。此使命を幾分にても果して居りますものは托兒所だき信じます。昨年は徳川家の寄附による給食を一ヶ月程つゞけ、次に或る時機に東京府よりの配給米があり、又朝日新聞社からは牛乳を四十日ほど配られましたし、托兒所それ自らに於ても夫々の經營難の中より給食をすべく頭をなやました。然し之れは收容兒に付てゝありまして、一般の對象幼兒には及ばなかつたので御ざいます。此時に

前述の東京聯合婦人會の企によつて一般の飢餓乳幼児に給食しえまますことは感謝に耐えぬ次第でございます。小學校の飢餓兒に對しては、公費又は寄附によつて相當の考慮が拂はれて居りますけれども、乳幼児に對しては此度の東京聯合婦人會の企がはじめてでございます。然し限りある資金一地區に當り百圓又は數拾圓では一月二月の間に全く盡きてしまひます。長く待ちのぞまれし救護法案も漸く實施さるゝといふものゝ其豫算はズツトけづられて居り殊に老者、病者、不具者をも對象して居りますから、乳幼児には、その一割にも及びえぬと豫測されて居ります。

現時の不景氣狀態の長くつゞけば續くだけ、其對象乳幼児の數の多ければ多いだけ、たゞ少數の社會事業家や、有志者に任すべきものでなく、全國的に爲政者はじめ有能者によつて討究すべきものと思ひます。

生江孝三先生が大阪毎日新聞慈善團時報によせられし御言葉に「彼等の生育を飢餓即ち榮養不良の狀態の儘に放任して顧みないと思へば、それこそ極めて慘忍の處置といはねばならぬ、英國議會が飢餓兒童の給食費を大多數を以

つてこれを通過せしめたのは蓋し自然である、と。外國の例は私共に刺戟を與へる、實に國家は善處すべきであります。母子法案さへ中々決定を見ぬ、我が國の情勢は政黨の擴大にのみ腐心する人々にまつては殘念乍ら、乳幼児の事等は問題にはならぬのです。そこで吾々婦人殊に乳兒教育に當らるゝ方々に訴へて何等かの方法を考へたいと思ふ次第で御座います。幼稚園の父母方に協力を、給食費維持會費を募集するとか、又は聯合して催しものを、バザーを、等外に何かよき方法ございませんか。そして町の有力者に訴へます。此くして所々に起る小波の波紋をひろけ行く様に多くの關心を呼び起したいと切望の餘り皆様は御相談申上ぐる次第でございます。日支問題の危急の今日、來るべき次の時代を強め行く爲めにも此問題はおろそかに出來ぬ事とおもひます。貧の原因は社會にあるにせよ個人その親にあるにせよ、子等には罪なく而かも將來を有つて居ります。まづ此の幼な兒を平等に幸福にすること、暗き世相を明るくいたします眞の文化のパロメータではないでせうか。

私の幼稚園

—昔 噺 の 巻—

水 嶋 さ ゆ り

園長、時雄、時雄のお祖父さん、お祖母さん、紅梅の咲初めた鉢を園んで褒めてゐる。

時雄「咲いたよ、咲いた。」

園長「綺麗な花が。」

お祖父さん「ひこ、ふた、三花。」

お祖母さん「梅が咲いたよ。」

時雄「おいで驚。」

園長「ホケキヨごお鳴き。」

時雄のお祖母さんのお囁

むかし〜天子様のお庭の紅梅の樹が枯れました。天子様は家來達に代りの梅の樹を植ゑるやうにお言附けになりました。家來達はあちらこちら捜して、やつこ美しい紅梅を見附けました。家來達は其のうちの一人に、

「天子様へ此の梅の樹をお上げ申して下さい。」

と言ふこ、其のうちの人が、

「喜んでお上げ申します。さうぞお持ち下さいませ」。

と言つて、歌を書いた紙を花の枝に結附けました。

家來達は其の梅の樹を掘探つて御殿のお庭へ運んで來ました。

「あゝ見事、見事」。

天子様は大層お喜びになりました。それから紙に書いてある歌を読んで御覽になります。

此の梅はホケキヨのおうち。

ホウホケキヨウ。

と書いてありました。天子様は、

「や、此の梅は鶯のおうちか、鶯のおうちを奪つてしまつては可哀想だ」。

とおつしやつて、もこの處へお返しになりました。

時雄のお祖父さんのお囁

竹に雀は仙臺様よ、

一羽の雀がちつ、ちつ、ち

二羽の雀がちつ、ちつ、ち

三羽一緒がちつ、ちつ、ち。

仙臺様と言ふのはお殿様です。お殿様の子に鶴千代さまと言ふ坊ちゃんがありました。そして家來に千松と言ふ子供がゐました。鶴千代さまも千松も、食べる物が無くてお腹がぺこぺこになりました。

鶴千代さま「ままだ食へたい」

千松「わしもママが食べたい―」

二人は泣きさうになりました。千松のお母さんが、

「鶴千代さま、今直にママを炊いて差上げませう。千松、雀の歌を歌つてお上げ。」

千松はぺこぺこのお腹を耐えて、小さな手をたいて、

一羽の雀の言ふこゝにや、言ふこゝにや、

ゆうべ貰うた萩の餅、萩の餅。

こ歌ひました。するこお庭の竹に居た親雀が、「ちつ、ちつ、ち。」こ縁側へ飛んで來ました。千松はお母さんからお米を少し貰つて、縁側へ撒いてやりました。親雀が喜んで、「ちつ、ちつ、ち。」こ鳴くこ、竹に居た子雀が又飛んで來ました。

二羽の雀がお米を食べるのを見て、鶴千代さまこ千松が、

一羽の雀の言ふこゝにや、言ふこゝにや、

ゆうべ貰うた萩の餅、萩の餅。

こ歌ひました。雀が皆お米を食べてしまふこ、

鶴千代さま「ママはまだか。」

千松「早う、ママが食べたい。」

其の時千松のお母さんが、

「さあさあ、ママが出來ました。」

こ言つて、鶴千代さまこ千松に湯氣のたつ眞白なおまんまを食べさせました。

さつきの雀がお庭の竹で

ちつ、ちつ、ち。ちつ、ちつ、ち。

ご樂しさうに歌ひました。

時雄のお囀

お天たう様とお月様とが一緒にぎつか遠くの方へ遊びに行つておしまひになりました。それで晝も夜も眞暗になりました。

鳥がカア／＼鳴きました。

馬がヒン／＼なきました。

牛がモウ／＼なきました。

犬がワン／＼、豚がブウ／＼、猿がキツ／＼と騒ぎました。大勢の鳴く聲がお天たう様やお月様のお耳に聞えました。

お二人は大急ぎでお歸りになりました。一緒に竝んでおいでになるので、あまり明る過ぎて、鳥も馬も牛もまぶしくて眼があげられません。犬も豚も猿も皆眼がまつて、ころんでしまひました。

「これでは可哀想だ」

お二人はかう言つて、別々のおうちへお這入りになりました。そして晝間はお天たう様が照し、夜はお月様が出るやうになりました。それで鳥や獸は皆喜びました。

圖長のお囀

お猿拾つた柿の種、

蟹が見つけた握飯。

あら、ら、ら、ら

お猿食べたい、握飯、

蟹をだまして取替ごつこ。

あら、ら、ら、ら。

桃栗三年柿八年、

梅はすい／＼十三年。

あら、ら、ら、ら。

お猿ばく／＼甘い柿、

蟹にぶつける澁い柿。

あら、ら、ら、ら。

猿蟹合戦大い／＼さ、

お猿ぺちやんこ蟹萬歳。

あら、ら、ら、ら。

猿蟹合戦でぺちやんこにされた猿は、蟹や曰に、「ぼーん」ミ谷間へ投込まれてしまひました。谷川の水が猿の口へ這入つて猿は息を噴返しました。

「あゝ、ひびい目に遭つたものだ。もう蟹をかまふことは止めよう。」

猿は谷間からやつミの事で這上つて山路にぐつたり寝てゐました。

する／＼一人のお爺さんが山へ柴刈りに來ました。

お爺さん「おや／＼、こんな處に猿が寝てゐるよ、可哀想に、ぺちやんこになつてゐるね。」

猿「お爺さん、お腹がぺこ／＼です。何か食物を下さい。」

お爺さん「よし／＼、握飯を上げよう、さあお上り。」

腰にさけてゐた袋の中からお辨當の握飯を一つ出して猿にやりました。猿は思はず握飯に飛附きました。そしてばかり
ご食べようとして、

「お爺さん、あなたに上げる柿の種がありません。」

ご心配さうに申しました。お爺さんは腰を伸して大笑して、

「心配しなさんな、わしは蟹でないからね。」

と言つたので、猿は安心して握飯を食べました。そして

「お爺さん、お蔭で元氣になりました。」

と言つて、お禮にお爺さんの柴刈のお手傳をしました。

夕方お爺さんは柴をぎつさり背負つてうちへ歸りました。うちではお婆さんが大きな桃を抱へてお爺さんの歸りを待つてゐました。

「お婆さん、今歸つたよ。」

「お爺さんかえ、待つてゐましたよ。ほら御覽、こんな大きな桃が流れて來ましたよ。」

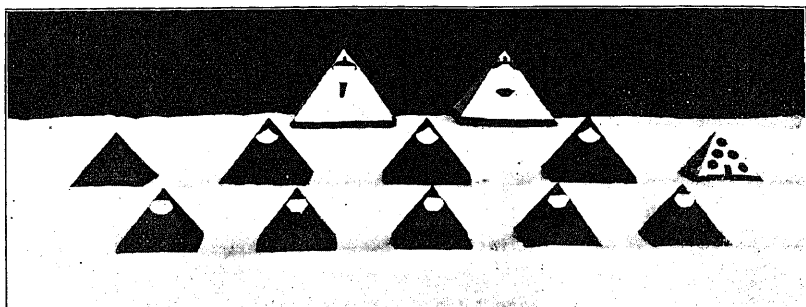
「ひやあ、大きな桃だねー、切つて食べよう。」

お爺さんお婆さん二人がかりですばつち切るに、桃がばん／＼二つに割れて、

「おぎあーつ。」

ご桃太郎が躍り出しました。

猿は此の話を聞いて喜びました。そして桃太郎の家來になつて鬼が島征伐のお供をしました。



入れ子雛

及川ふみ

圓形のお雛様はかつて誌上でお話いたしましたので今年は少し形をかへて、入れ子雛のつくり方を御参考に使ひませう。

材料 一組 三〇人分 紙は全部伊豫杵紙

桃色 大判 六枚

水色 四枚

赤 六枚

黄色 六枚

緑 六枚

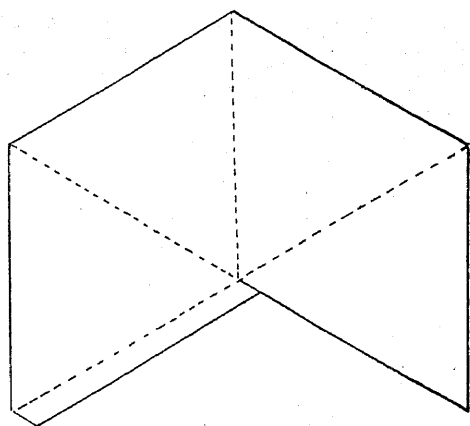
茶色 一枚

一枚四錢の伊豫杵が二九枚で合計壹圓拾六錢で三〇人分のおひな様が作られます。

製作の順序

親王様内裏様

水色ミ桃色の紙のうらに、半徑八センチの圓を畫きこれを半徑の大きに切つて六角



口をこつて残りの二つの三角形を切りおこします。

圖の如し。

圖の如く四つの角ミノリシロの外は餘りの部分であるから次の圓を畫くときは前の圓の上にある部分重ねて出来るだけ紙を經濟的に使用するこ一枚の大判の伊豫杵で九つの親王様が出来るのであります。

顔は圖の如くに左右の線が三角形内におさまる様に適

當の大きさに白の畫用紙に畫きて切りこつてはる。

顔の大きさが大に過ぎるときは形が可愛らしくない様であります。

冠

親王様は黒の伊豫杵か又は畫用紙を黒くぬりたるものを上の形に切りこの中央はごくに二センチ位の長さにして下の部分だけに糊をつけて頭の上にはります。

内裏様の冠は黄色の伊豫杵を山字形にきつて頭の上にはりつける。

笏ミ扇は黄色の紙で適當の大きさにしてつくる。

親王様、内裏様の下の部に綠白桃色の色紙を半センチ位の幅に切りて周圍にはりつける。

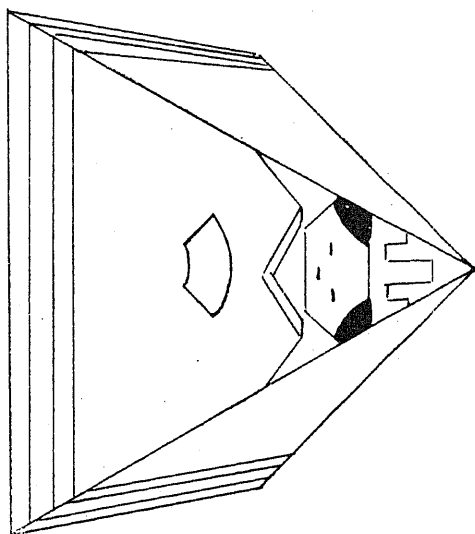
三官女

赤の伊豫杵の裏に半徑六センチ半の圓を畫き三角形の四つミノリシロをつけておく事内裏様のときと同様でこれは一枚の紙で十六個作る事が出来ます。

顔

内裏様と同様に畫用紙で作ります。

内裏様



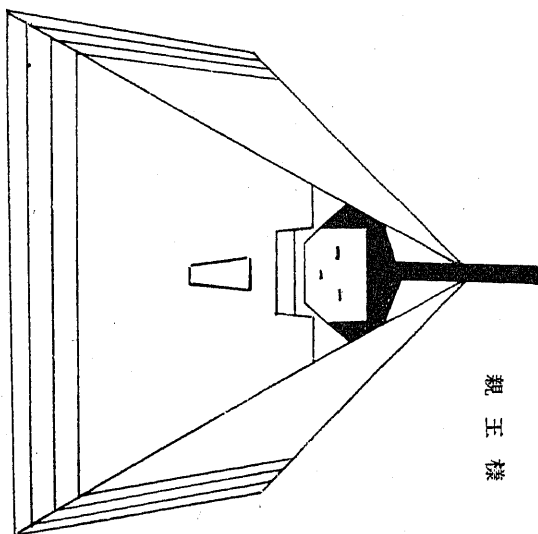
上着

黄色の伊豫杵にて胴の部分の三角形の左右の線に合せて切りぬきてはる。

五人囃

緑の紙を半徑六センチの圓にして内裏様と同様に作る
これも一枚の紙で十六個作る事が出来ます。

親王様

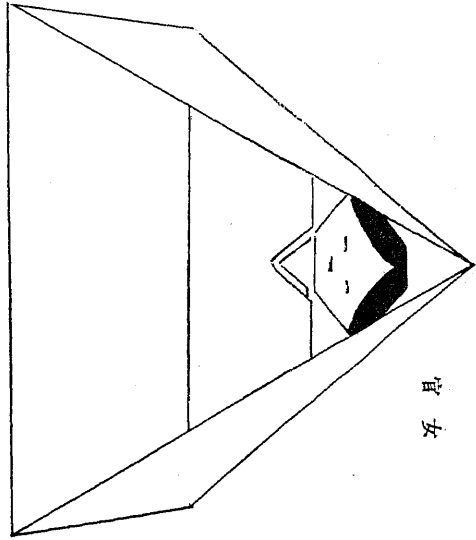


緑の五人囃を二個ミ橘の分を合せて緑色では幼児一人に三個づつくり黄色の五人囃は三個つくる。つまり五人囃は黄色で三個、緑色で二個とする。

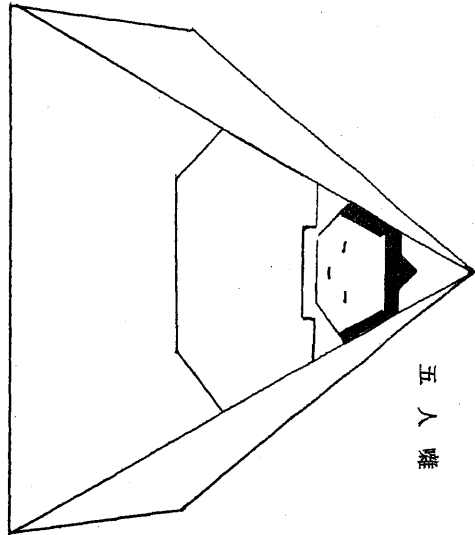
黄色の五人囃には緑の上着をつくり、緑色の五人囄には黄色の上着をつくる。

櫻橘

官女



五人囃



櫻は桃色の紙で五人囃と同じ大きさのものを作り、橘はさきに作つてあるのをを用ひる。

柵ミ木の幹ミは茶色の紙を三ミリ位の幅にきりたるをはる。これは顔ミちがひ四つの面に全部にはる。

櫻の花は赤の切りくづを半センチ四方位にして隅をおとし一面に六つ位づゝはる。

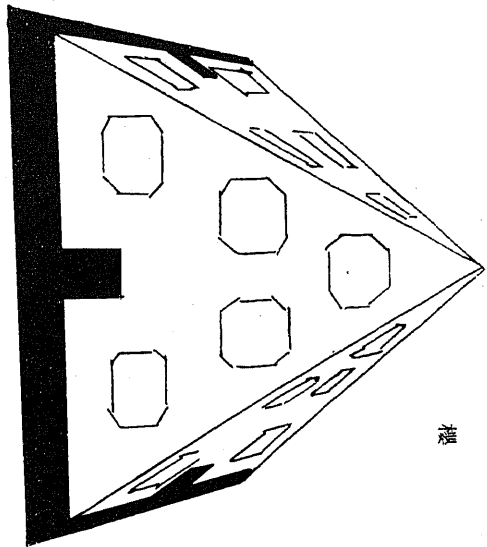
橘は黄色の切りくづを櫻ミ同様利用してきつてはる。

製作させるについての注意

これは内裏、親王、三人官女、五人囃、櫻橘等全部で一人の幼児についての十二個も必要であるが謄寫版を用ひず一つ一つ鉛筆で形をきつてする方が精確に出来る。

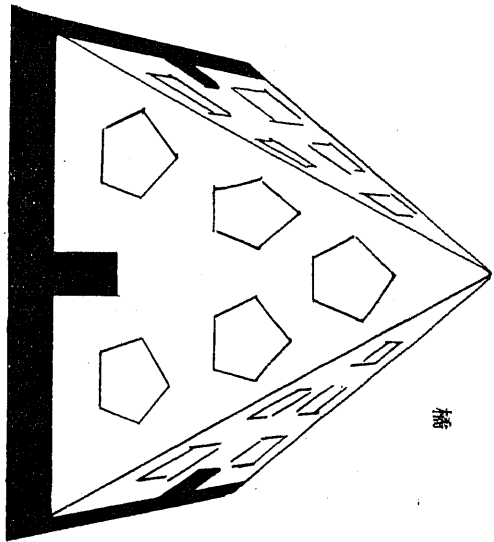
尙一人前分の材料をミのへてこれを大きな封筒様のものに入れて用意しておく。

その袋の中からあるときは内裏様だけミがあるときは



三官女だけミカをきり出して鉛筆の線をたぎりて丁寧
に切らせる。この切る分量が多いときや同時にさせる幼児の
数の多いときにはミカが亂雑に切りがちなものであるか
ら一人の幼児に一時にさせる分量はなるべく少くし又な
るべく少人数の幼児でさせる様にしたいものであります。
正確に線をたぎって切つておかないミ出来上つた形が
奇麗にならないのであります。

序ながらに申しておきたい事はこんな特種な材料であ



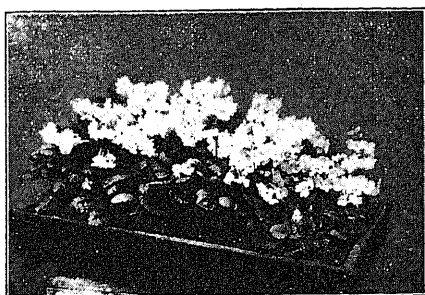
つてなるべく一人一人の幼児がつくるものについて保姆
がごく丁寧に指導してさせるものについてはごく少人
数の幼児だけにこの材料を與へて特にこの小さいグル
プを作つて保姆はその製作に注意して他の幼児には比較
的手をはなしてさせられる様にして自由畫や粘土製作な
ミをさせて次々ミ幼児をきりかへてさせなければなら
ないのであります。

花壇並に花壇用草花年中行事

—三月—

日比谷公園花壇掛

富 本 光 郎



花壇並に花壇用草花について私の今まで日比谷などにおける浅い経験を基としてその月々に於ける夫々の必要行事を書いて見る事にいたします。大體露地栽培草花なので子供にも作れる様なものの多く聊かなりとも御参考になれば幸と思ひます。

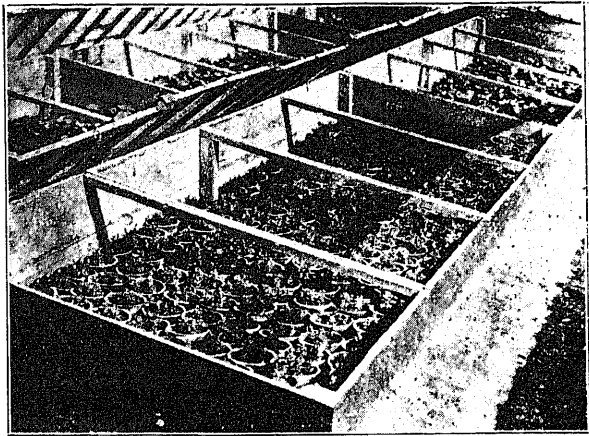
草花苗床の手入

春になつて花壇に植出す草花の苗の中宿根草又は秋蒔きの二年草の中でも丈夫なものは放置のまゝであるが東京附近では大抵のものは（バンジー、金盞花、ストック、アリッサム、シレチ、金魚草等）霜除の下で育てられているのが普通であるが、冬季はさうしても手入れが怠り勝になつて雑草病蟲害等に侵され思はぬ失敗を招く事があるから常に見廻つて注意してゐなければならない。

又霜除下は非常に乾燥するもので土質にもよるが時々
の灌水を忘れない様にする。

フレームの管隄

花壇用の草花でフレーム（普通護熱物なぞの入れてない冷床）内で培養してあるものはシキリヤ、マガレット、ベゴニア、センバフローレンス、ライナム、シザンサス、ゼラニウム、プリムラ、メラコイデス、姫松葉菊等であるが是等のものには半月に一回位の割合で油粕の腐熟液の極く



稀薄なるものを施してやる様にす
る。

又花壇に
植出すには
出来るだけ
莖葉を丈夫
に育て、お
かねば春に
なつて強い
光線に當る
まぐつたり

ミ萎れて見にくいものになるから少し位寒い日ならば晝間は硝子障子をすつかり外してよく光線に當てしつかり
ミした苗に仕上げる様にする。然し此月は最も寒氣の烈しい
時季であるから夜はびつたりミ蓋をして莖や苔などの
覆もの一枚位今までより多くして寒さに害されぬ様に

してやるこゝが大切である。

移植を忌むもの、鉢植

此月の下旬頃からは次第に暖氣も加はり植傷みも少なくなるから移植を忌むもの例へばアリッサム、ストック、けし、ひなげし等の苗床にあるものの鉢植を開始する。これだけ書いたのでは判り難い事と思ふが總て花壇用草花は可成々長して蕾が見え始めてから花壇に植出すものなのでそんな大きさになるミ前記の様なもの床から直ぐ移植するミすつかり傷んで甚だしいものはそのまゝいじけて枯死する様なこゝがあるのであまり大きくならない中に鉢植にしておき、その時期までに、鉢一杯に根を張らしてそれをすつほりミ抜いて植付る様にするのである。

移植を最も嫌ふもの例へば秋蒔では花菱草、ネモフィラ、スイトピー、ホリツク、ルピナス、等春蒔では鶏頭、葉鶏頭等は始めから花壇の適當な場所に直播するか又は鉢蒔ミしておくので美しい花壇を造るためには是等よくその草花の性質を知つておかねばならない。

其他移植を嫌はないものでは小さい時に一回大きくな

つてから一回位必ず植換を行つて細根を十分發生せしめておくべきものである。

培養土の調製

總て觀賞植物が立派な花を開くか開かないかはその培養土に左右される事多く殊に鉢栽培のもの特に菊、朝顔、薔薇などには夫々そのものに適切な培養土を造つておく事が最も大切な仕事とされてゐる。それでこの開期を利用して落葉、古葉、鶏糞、其他塵埃等を全部一ヶ所に堆積して土部から人糞汚水油粕液等を注いで時々切返しを行へば立派な培養土が出来る。然し落葉の新らしいものなどはよく腐敗して土の様になるまでには約一ヶ年位は要するので今年堆積したものは翌年使ふ様にし順次毎年調製しておくのである。

花壇の耕耘

花壇内で宿根草球根類其他何も植込んでない部分は今のうちに十分耕耘しておく。これは土壤の風化作用を十分にするばかりでなく病害蟲の細菌等を死滅せしむる效が

あるのでは非行つておくべき作業である。

又土壤を肥沃にするために人糞尿其他の肥料を十分撒布しておくのも必要な仕事の一つである。

櫻草の根分植付

大體櫻草は殆ど全世界にその野生種があり採集改良されて現在では三百餘種類に及んでゐるもので日本にも二十餘種類産するのであるが此處に云ふ日本櫻草といふのは荒川沿岸などに一面に野生していたものを江戸時代に盛に栽培し改良して數百に及ぶ園藝品種を持つに至つたものについてであつてこれは實に世界に誇るべきものでその形容その色彩の多種多様なものも然も品位あるつまやかな風貌は何人の嗜好にも適するものである。

此ものゝ根分植付は今月行はれるのが普通で紀元節前後十日間位が最適とされてゐる。色彩は大體淡いもの多く又露地植としては性質の弱いものなので花壇用には不向で鉢植として觀賞するに適してゐる。

大體徑五、六寸位の本焼鉢に三芽位植込むのが昔から行

二月の土いじり

大 岩 金

觀賞方面は一月にほゞ同じく露地物は極めて少なく一月から三月までは温室、フレームの時期であります。しかし来る春の爲に外でもしておかなければならない仕事があります。

一、垣やその他の庭木、果樹類に寒肥を施すこと

二、害虫の卵をこつておくこと

是等につきましては冬の初の土いじり問題として申し上げましたから只之丈に止めておきませう。

この外に主な仕事としては種々の繁殖を行ふ時期であるのであります。

一、挿木

常緑樹類の挿木は多くは梅雨期に行ふのであります。落葉樹類の挿木は秋末及びこの早春芽の動く前に行ふの

が常であります。その主なものは、バラ、ボケ、ヤナギ、スズカケ、イテフ、レンギヤウ、エニシダ、アヂサイ、葡萄、無花果などであります。

その方法は前年生の枝のよく充實した部分を数節づつに切り下方の切口は節の下から利刀で斜に削りフレームの設備のある所はこの中に露地であります時はなるべく日當りのよい所に挿床を苗床と同じやうに作りこゝに枝の過半を埋めよく踏み付けておきます。更に敷藁又は敷草の如きで霜柱のたつのを防いでやります。このやうに致しますれば四月頃には發根發芽致しますけれども秋まではこのまゝにして秋になつてから適當な所に植ゑ替へてやるのであります。

二、接木

接木のうち枝接を二月には行ふのでありますがその方法は曾て申しましたので省略する事に致します。行ふ種類は梅、櫻、バラ、桃その他落葉果樹でありますが果樹にありましては多くは本月下旬から三月にかけて行つて居るやうであります。

その外誘接にて普通の接木で容易に活著し難いもの即ち楓や椿の類はこの方法で接木する事もこの切行ふのであります。

三、肥料の調製

1、乾燥肥料

今のうちに肥料をこしらへておきます事は大切な仕事の一つであります。そのうち乾燥肥料は次のやうな長所をもつて居りますので是非こしらへておきたいと思ひます。

- 1、各種の肥料要素を含んでゐること
- 2、貯藏に便なこと
- 3、惡臭のないこと
- 4、濃厚であること
- 5、外觀もさほど悪くないこと

以上のやうでありますから殊に鉢物などの限りある土の中で栽培しますものには極少量を用ひましてもよく肥效を奏しますので至つて便利であります。又濕氣の多い時に肥料をやらなければなりませんやうな時にも乾燥肥料を用ひる事は都合のよい事であります。

配合量は色々ありますがその一、二を示せば次のやうであります。

1				
土	灰	過磷酸石灰	魚肥	油粕
一〇	一	二	三	四
2				
土	灰	米糠	油粕	
一〇	二	三	八	

以上をよく混ぜ合せまして是をカメの如き中に入れ上から水又は米のぎ汁なごを肥料が丁度浸る程度にそゞぎ上に雨水の入らないやうに蓋をしておきます。この節ですゝ二、三週間程たちますれば上面に黴が出て居りますから更に今一度攪拌して水分がなくなつて居りますれば更にに入れて前同様蓋をしておきます。次に二週間も経まして

蓋をこり微が出て居りますれば又攪拌してそのまゝにしておき後微が出なくなりましたならば既に肥料は充分腐熟したのでありますからこり出して一日位日常に乾しそれからカメなり桶なりに入れておき適宜使用すればよいのであります。

ロ、液肥

乾燥肥料の外に出来得れば液肥も用意しておきたいと思ひます。

液肥には油粕、鯨粕、 \times 粕いづれもよろしく是に約五倍の水を入れて蓋をしておくのであります。只今用意しましたのは三月末か四月頃から使用出来ます。未熟のものは害がありますが腐熟しすぎるこいふ事はないのであります。又この腐熟に要する日数は季節によつて異なり夏季には三、四週間で充分使用する事が出来ます。しかして使用に當りましては草花の種類により、發育の度によつて更に上澄液を十倍乃至三十倍に薄めてやるのであります。施肥の注意は濃すぎたものより薄いものを度数を多くする方が效力が大なものであります。

(四八頁よりつづく)

はれてゐる方法であるが三寸位のものに一芽植えてもし又形の變つた滋味のある平鉢に配置よく澤山寄植にしても又面白いものである。

土は軽いものを好むので大體腐葉土七、荒木田二、砂一位の割合に混じたものが用ひられ、肥料は他の草花に比べるに極めて少量でよいのであまり施し過ぎるに直ぐ肥料負けしていぢけてしまつたり又窒素質のものが過ぎるに葉ばかり伸びて仕方のないものなので植付の時根から少し離して腐熟した油粕、又は米糠等を極く少量入れてやるだけで後は花の終つた時薄い液肥を一二回施せば十分である。

性質として寒氣に強く暑氣に弱く乾燥を忌むものであるから冬は其儘露地に置いてよく夏は鉢の儘土中に埋め込んで半日蔭にしてやる事が大切である。

押しくらまんぢゅう

久保田 宵二 歌
佐々木 すぐる 曲

1. オ シ ク ラ マ ン デュウ ヨイ シヨ ヨイ シヨ ヨイ シヨ
 2. だ さ れ て こ ろ げて ヨイ シヨ ヨイ シヨ ヨイ シヨ
 3. オ シ ク ラ マ ン デュウ ヨイ シヨ ヨイ シヨ ヨイ シヨ

オ シ ダ セ オ シ ダ セ マ ン ナ カ ヘ
 な く こ は オ シ ダ セ い く じ な し
 ユ キ ナ ド チ ッ ト モ サ ム ク ナ イ

押しくらまんぢゅう

土 川 五 郎

五二

一、押しくら……右向をなし左足一步前へ兩手の掌を向ふにし指先を立て、斜左前に押し出す。

まんぢゅう……右足一步前へ兩手を前の如くして斜右前に出す。

ヨイシヨヨイシヨ……正面を向き兩手は自然のまゝに上げて右肩で右方を押す時一步右へ行き、次の「ヨイシヨ」にて體を左へ戻す。

ヨイシヨ……尙一回右へ前と同じく押しに行く。

おしだせ……「押しくら」と同じく前へ（内方に向つて斜左前へ）

おしだせ……「まんぢゅう」も同じくす（斜右前へ圓の中心に進む）

まんなか……左足一步前へ兩手を兩側より丸く前へ出す「か」にて兩脇を引き兩手を胸に掌前に指を立てる。

へ……體ミ一所に兩手を掌前にして押し出す。

一、だされて……左足一步後へ左向きなり、兩膝を屈し兩手を左右に開き掌下にす、顔は下に向く。

ころけて……右足一步あきへ右向きなり前と同じくす。

ヨイシ ヨヨイシ ヨヨイシ ヨ……兩手を體前に下けてフラフラミ左右に振りつゝ後退す。

なくこは……斜左向きをなし右食指にて前方を指すこ二回、上體を少しく前をのぞき込む様に
よはむし……足踏ミ共に拍手二回

いく……斜右向をなし右手を握り肱を曲け拳を體に近くして又再び右手を斜右前に伸ばす。

ぢな……又右拳を上より胸の方へかへして再び右手を伸ばす。




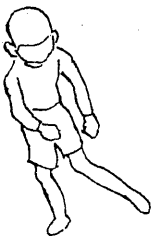

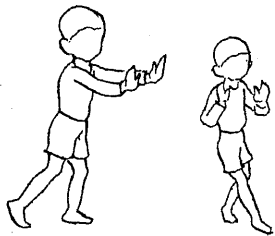



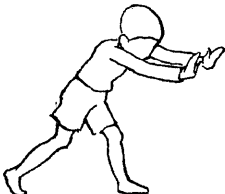

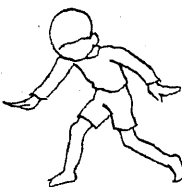
し……右足を一步強く右前に出す(十分に)時右足を強く一步斜右前に踏み出し(右膝を屈す)顔は右拳の方に向く
三、おしくらまんぢう……左向をなし第一こ同じこを左方に行ふ。

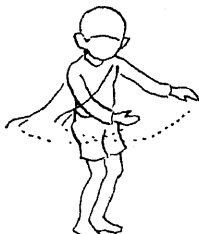
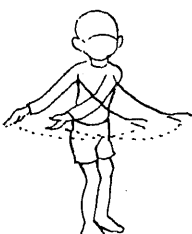


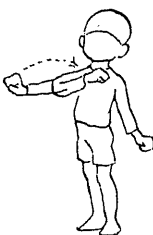


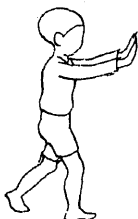






ヨイシ ヨヨイシ ヨヨイシ ヨ……正面ミなり左肩にて左を押すこ二回、二歩左へ

ゆきなごふつても……下を向き雪の中をかけまはる如くして駈足にて右へノミまはる四歩

さむくな……拍手二回

い……兩踵をあけ兩手を上方へ十分あけ全體上へ伸びる

(1) おしく	ら	まんぢゅう
		
ヨイショ	ヨイショ	おしだ せ
		
おしだせ	まんな	か
		
へ	(2) だされて	ころがて
		

ヨイショ ヨイショ	ヨイショ	なくちは	
			
よわむし	いくぢな	し	
			
(3) おしくら	まんぢゆう	ヨイショ ヨイショ ヨイショ	
			
ゆきなど	ふつても	さむく	ない
			

SINKITI

SINKITI

此頃のあそび

東京市麴町區番町小學校附屬幼稚園 檜 山 京

風あび

生地のままで買つた風に幼児自身で繪を描いたもの（繪の描き易いといふ點から角風にする）紙テープを、長い方がいゝ云ふ幼児の望で二メートル位の尾にする。五百坪からある本校々庭は、朝九時から十時半頃まで半面は十分の遊び時間を除いては暖い陽をあびて廣々としてゐる。

幸今年は寒さが強くないので毎朝この本校々庭で風あけがはじまる、三階の窓位の高さにあがる風の絲を持つて上を見いゝ走るゝ、三四回も運動場をかけ廻つて來た子の頭からは湯氣がたつてゐる、汗を拭つてセーターを脱がせて、其間も子供の心は空に行てゐるらしい。風は、あけ手も多いし、校庭には立樹もあるので忽ち名譽の負傷をする、「先生やぶけた」初めのうちこそ助力を求めた子等もあまりしげゝなのでしまひには、いくつでも自分で傷を

繕ひ繕ひしてあける。一人に一枚つゝいふ程十分でない風は自然代りあつて、あけ手になつたり助手になつたりしてゐる。紙の負傷は繕へるがしまひには骨が折れる、けれど「骨なんか折れてゐてもあがる」云つて持つて行つてしまふ。なるほご引き風程度には少し位折れてゐても差支ないらしい。

十枚の風が一日でかなりな負傷をしてしまつた。けれど汚れたり繕つてあつても、よくあがる風は子供から望まれて、次の日も又次の日も。

さうゝ一週の終りにあまりひさくなつたので、西の内（日本紙）をそのまゝ半折に切つたのゝ大小にして又幼児に描いてもらつた。骨は大人がつけて、大分しつかりした風が出来上た。やつぱし紙テープの尾をつけて今度は丈夫だらうとあけるゝ、何の具合かあまりよくあがらない。ぢきにメンクラウ。それでも子等は「大丈夫あけられる」云つ

ていろく、工風をしてゐる。西の内は紙がよすぎて重くなるので三錢風にはかなはないらしい。三度目に今度は風を作るよりあける方が主なので出来てゐる風の丈夫なのを買ふ事にした。お正月になるともう無地の風はないので繪風を商人にたのんだ。今に來たら立樹のない屋上へ行つてあけるのを樂しみにしてゐる。

獨樂

昔からある麻ひもを巻いて廻す獨樂、それはよく廻るし幼い力にも廻せるけれど幼稚園の様に多人數で遊ぶせまい處には危険がある。木に金が著いてゐるので慣れぬうちは友達にあたるこいけない。デパートの玩具部へ行つたら金の子に見えて厚い木に著色したのがあつたので丁度よし、麻ひもを巻いて試した所どうもよい工合に行かない。幼年時に獨樂を廻した経験のない私達には、廻すこつが解らないで困つた、これは昨年の事になるが本校の先生や給仕さんに教はつて、子供達が歸つてからコマ廻しの練習をした。けれど結局金であるべき部分を木にしたコマは上手な人がしてもよく廻らないといふので試しに求めた少數のだけにした。今年は恩物コマといふのゝ大形のを使つた、年

の小さい子にも大きい子にも自由に廻せるし大型なのであまり紛失もせず整理の都合もよく皆から喜ばれてゐる。

室でコマの廻しくらをしてゐた男兒數人、元氣のいゝM君、一心に「黄色ッ、しつかりッ、しつかりッ、ヤッアウト」「君、今のはHちゃんのが初おくれたんだからドラゴン勝負だよ」。二十年前の幼兒も三十年前の幼兒もコマに興じた事は同じでも此會話は將に昭和七年産であると感じた。私がつきり記憶してゐる言葉で、今からやがて三十年程前になるが五歳になるコマの大好きな男の子は「ゲンスイコママワシ、ツナワタリーッ」云つた。尤もこれは紺緋の羽織を着物、下駄ばきで井戸ばたの裏庭。前者は水兵服やセーターの園兒の群コンクリートの室の中である。

コマには旗の彩色ある旗コマ、手製の豆コマなど喜ばれますが損じたり小さい爲に紛失したりし易く、大正コマといふウナリを立てるものもありますが細い糸がまきついて工合が悪くなり易く長つゞきがしません。前に述べました大型のはいつまでもよろこばれ遊び方は幼兒の方で色々工風をして居ります、女兒だ（女兒のみには限りませんが）滑臺の上で廻す廻りながらコマが下りるので大層興

がつてゐます、又コマの上にボール紙や色がみ、廣告紙を穴をあけてのせたり。コマだけでさかしまにして傘だまかキノコだまか、それが斜に廻るのをみてミソスリだま云つてわざと斜にさかしまにまわる様に練習したりしてゐます。

メンコ

殆毎年の事の様に思ひますが冬の初から一、二月へかけて路傍の遊の延長かと思はれるメンコといふ遊びが、はやります、それで昨年一學期末の家庭通信に次の様な事を記しました。

「一人で各自『紙片を床にたたきつけて、相手の紙片がひつくりかへれば、ひつくりかへした方が勝になつて相手の紙片をさる、』メンコといふ遊びが十一月半頃から幼児達の間に大層興味をもたれて居ります。床の上の紙片がひつくりかへる事、其結果自分のものが多くなる事、この二つ殊に前の『ひつくりかへす』事に多大の興味（そこには力ミ一種のコツが要る様です）が持たれ殆ど男兒のみによるこばれてゐます。此遊びの缺點は床にたたきつける爲に紙片が汚れ自然手が不潔になる事ミ、下を向いてばかり居る事です、勝負の終つたあきには、こつたのも、こられたのも一緒

に箱にしまひますから慾ばる事はないと思ひますが、それ故園では今の處、不用のボール紙や他の紙片で自分で剪つたり折つたりして作る事は止めませんが、店で買つたりお家から持て来る事はかく止めてあります。なほ一月からは風あけ、カルタ、コマ等へ興味をむけてなるべく自然に此遊びを變へる事が出来る様に希つて居ります。」

前にあけた、風、コマ、他にカルタ、オハジキ、羽根、風船、ビルダ等の玩具を出して無言にメンコを止める様努力しましたが下もえの草の様に、何か手頃の紙片があるミさうもはじまりさうなので明かに「お正月からメンコは止ませう」ミいふ事にしました、そして八日以來今日までまづ計畫通りになり、其中年長兒は製作慾も盛になつて來たり風あけや、コマ、暖い爲でかくれん坊、かけふみなミ運動型のおそびの方へ向いて居ますが、土曜日フト又メンコをし度いらしい様子を見ました。私ミしてはやつぱりカルタ、動物あはせ、旗あはせ等他の遊びへ向はせ様ミ思ふのですが、何か他によい方法がございましたらさうぞおをしへ下さいませ。それミもメンコがかように興がられるのは私の所だけなのでございませうか。（一月二十四日）

(およばれの日)あそび

東京市麹町小學校附屬幼稚園

柴田みどり

(およばれの日)それはおよばれするお客様にも、およびする主人側にも共に待遠しいうれしい日なのです。

當園では各組との親密を増し共に一日をたのしく面白く遊ぶ事を主眼として一學期に一度づゝこの日をきめて三組が順におよびする事にしてゐます。これは、先づ私どもがその季節に合つた童話やお話を選んだり創作いたしましたりして案を設けて幼児に相談して各々の役割を仕事を定めて準備をし、當日は保姆が主となつて會を進行させます。

第一學期 (夏) 龍宮城へ(浦島太郎のお話にて)

第二學期 (秋) お山へ (創案)

第三學期 (春) うぐひすの宿へ(創案)

幼児達はこの保姆のお話の進むにつれて想像の世界で

ある龍宮城。秋の山。うぐひすのお宿にほんこくに遊んでゐる氣持になつて何の不思議も矛盾もなく楽しく活躍いたします。まづ創案から述べてみませう。

秋のお山へお遊びに参ります。(十一月頃)

私(保姆が申します)は森の小人です。今日は皆様を森にお連れしに参りました。森は今それは／＼美しく御座います。まづかなかへでや錦木が緑色の松や杉の葉がさなり合つてきれいな／＼お着物の様です。又木には甘い柿や栗が澤山なつてゐます。お山のお姫様は皆様にいろ／＼な面白いこをお見せしたり御土産を差上度いゝ待つてゐらつしやいます。さうぞお出で下さいませ。さあお歌をうたひながら参りませう。(お手々連いでのお歌を合唱する)だん／＼お山も深くなつて來ました道も細くなりました。ア



ラあんな所に栗が澤山落ちてゐます。お歸りに拾ひませうね。おや何か來ました。あゝ私の兄弟です。

小人(僕(幼児)達もお迎ひに來ました早くまいりませう」

さうも有難う、さあだんぐ、近くなりましたあの木のむかふです。オヤ又何か來ましたあゝ熊です。(左の衝立の影から出て來て皆の前に進みおじぎをする)

熊「みなさん今日はよくいらつしやいました」

「こんごは兎が來ました」

兎「みなさん今日はよくいらつしやいました」……(右の様にしてライオン、狐、トラ、雀、文鳥、目白、烏、ふくろ、等順に出て來て挨拶する。組の人数によつて獸や小鳥の數を増減する。簡単な言葉であるから誰にも云へる。)

する分澤山お迎に來て下さつて有難う。さあ急いで参りませう(お手々ないでを歌ふ)そらもう御殿です。(中のしきりを取る)お姫様や木の葉がならんでゐる)お姫様やうやくお連れしました。

お姫様(幼兒)皆様よく入らつしやいました。この間から皆でおまちしてゐました。今日はたくさん遊んで行つて下さ

いませ。木の葉の歌や踊りをおみせしませう。(楓や銀杏が順に出て、木の葉の歌其の他何でもを歌つたり踊つたり) するお客様は拍手する。

お姫様、こんごは獸さんや鳥さんにしていただきませう。獸ミ小鳥が、うさぎ小鳥の學校あしがら山小鳥の言葉等の歌ミ踊をする)

お姫様「すいぶんお遊びして疲れましたでせう。ではお山の暗くならない中にお歸りなさいませ。おみやげを差上げませう」(前に準備した籠を木の葉達が配る)

お姫様さようなら、ごうもありがたう御座いました。さあ歸りませう小鳥さんも獸さんもさよなら。

小鳥、獸一同(さようなら又いらつしやいませ)退場する。

さあ急ぎませう。さつき栗が澤山ありましたつけ。そう、此處です皆様で拾ひませう。そうしてさつきの籠に入れませう。(前にきり紙で栗や木の葉を切つて散して置いたのを出て来て拾ふ)

さあもう澤山拾へましたね。オヤもうみな様のお家が見

へました私はこれでお別れをいたします。御元氣にお歸りなさいませさよなら。終り。

相談

1、前のおよばれの日を思出す。

幼兒は前の樂しかつた事を話し合つて喜びます。今度私達の組で皆様をお招きしませうミ申しますミ大賛成で次ぎの相談に移ります。

2、前のお山行きの話をきかせます。

3、役割をきめます。お山には何が居ますかミ聞きますミ自分の知つてゐる限りの物を申しますのでその内で、自分のなり度い者を考へて定めます。ライオンなど不適當ミ思ひましたが非常に熱心の心持で申しますので加へました。木の葉も美しいのを考へて選ばせます。

4、お土産を考へる。先は箱をいたゞいたから今度は籠がよいなぞミ申します。中へ何を入れませう。

チヨコレートビスケットミ自分の好きな物を上げますのでその数なごも定めます。

準備。

1、小鳥。獸。木の葉。つくり

小鳥と獸は繪本の中から自分のする者を探して來て見てかきました。標本があればそれを見てもよろしいと思ひます。薄いボールにクレヨンで描き切抜いて紐で前につります。

2、おみやげ作り

膳寫器にて籠を刷り自分の好きな配合にクレヨンでぬり切り抜く。一人で三つ位作る、他の組の方に差上げるのだと思つて一生懸命に作る。

3、お部屋の飾り

社會遊びの衝立に松、楓、銀杏を色紙で切りぬきはる。幹や草はボールにクレヨンをぬる。

御殿は箱積木に銀紙をはり組立てる。

4、栗や木の葉作り

膳寫刷したものに彩色して剪抜く。

5、練習

役割によつて言葉を覚える爲に練習をいたします。午前中は準備の製作にかゝりますので食後少しづつ致します。

皆嬉しくて練習しない日は不満足氣です。凡三度位致しませう。覚えてしまひます。

6、お知らせ。

字の書ける者にお招待の手紙を書かせて各組へご返します。

これで準備も出来ました。他の組の方は待遠しくてお部屋にのぞきに参ります。今までの喧嘩相手はすっかり仲よしになります。

當日。部屋の後方にお客様の席を設けます。正面は誰もありません。衝立の中では小鳥や獸になつた者のクス／＼コソ／＼と聲がきこえます。お客様は何が出て来るのかまちもうけてゐます。やがて私の話につれてお伽の森に遊びに参るので御座います。約、二時間近く遊んでお土産の籠中には小さな袋にお菓子が入つてゐます。貳錢。チョコレート二つ動物ビスケット五つ。色紙に包んだチョコレート二つ。畫用紙の栗やドン栗や楓も入つてゐます。それを大事そうにかゝえて歸り行きます姿を都會に育つて、ほんまうの自

貧しき母親の場合

牧 賢 一

本文は英國エステル・シルヴィア、パンカースト女史の“Save The Mothers”の一節を紹介したものである。貧しき母の妊娠中の保護に就て社會の注意を喚起せんとする女史の熱烈なる主張は、此の簡單なる抄譯によつては到底傳へられないが、母と子との問題の最基本的な重要面として考へさせられることが多い。

勞働階級の母親は一度妊娠をするに其の負はされる苦しい重荷にすつかり參つて了ふのである。彼女の成長して行く荷物の重量は重く彼女にかゝつて到底支へ切れないばかりになる。一週は一週ミ、段々彼女は毎日の仕事に堪へるこゝが苦しくなつて来る。脊中は曲り、脚は腫れ、腰は焼けつくばかりに痛む。死なんばかりに苦しい嘔吐、氣も狂ふかと思ふ程の頭痛。而かも未だ彼女には休息が許されないのである。家の中の一切を一人でしなければならぬ。萬一彼女が餘りの疲勞に家事の世話を休みでもしたならば、其の結果は數限りない汚れものがたまり翌日は更

に仕事が増積されることになる。

可愛い子供達が學校に行く、キチンとした身なりをさせてやらなければならない。直ぐに汚して来る彼等の着物の洗濯は全く彼女の精根を盡くさせる。漸く子供達が寢床の中に優しい寢息を立てる頃には、彼等の靴下にあいた大きな穴をかがり明日の衣服の繕ひをして置かなければならない。夜中になるともう彼女は其の疲れき氣分の悪いために寢付くこゝさへ出来なくなる。息切れがして動悸は劇しくなり、腿は痙攣を越し、足腰の節々は灼熱して齒までが痛んで来る。屑綿をつめた敷布團はゴックンと塊まり、古

いベッドの緩んだスプリングはギシ／＼と軋しむ。彼女は明日早く働きに出なければならぬ。夫の目を醒ますことを心配しながらそつと抜け出して椅子の所まで葡つて行く。こうして座つたまゝ夜明け方になつてウト／＼と微睡る頃にはもう子供達が起き始める。一番下のやつと乳離した子供が彼女に抱かれやうとわめき立てる。そうこうするうちには夫が仕事に出かけるために起きて来る。

それ程貧乏のひびく家庭でも少額所得階級の収入では日常生活に必要なものでさへも常に犠牲にされなければならぬ。母親は自分の夫のために、子供達のために、凡ゆる點に於いて習慣的に自分を否定してゐる。毎朝早くから劇しい仕事をしながらよく朝御飯を抜きにする癖を作つて了ふ。又其の他の食事の時でも小さい子供達に食べさせたり、お給仕をしたり、遅い家族を待つたりして時を失つて了ふことがよくある。自己を無視し否定する此の母親の習慣は妊娠やお産の時にも破ることが出来ない。子供達の喧さい世話、それは時に悪いことだとは知りつゝもお腹の子供まで慾しくないことを考へさせることさへある。自

分のことを等かまつてゐる暇も餘裕もない。少しでもお金のかゝるやうな何か特別なことを自分のためにすることは、非常に悪い利己的なことだし考へられない。貧乏がひどい時には毎も自分はお腹をすかせて子供達と稼ぎ手である夫のために少しでも餘分にパンを食べさせる。そして自分は僅かばかりの肩パンをかじるだけだ。「相棒！」と夫は彼女を稱ぶが、眞に彼女は家庭のひびく重荷の下にあつて支へる鐵の相棒ではある。

二人分の榮養を必要とする母親が一人分の榮養すら得られないでゐると言ふことは何と云ふ怖ろしい悲しむべき事實であらう。私は今、過ぎし昔あの煤煙の立ちこめたマンチエスターでの或る寒い薄暗い朝の光景が幻しのやうに思ひ浮ぶ——私は學校へ行くのでオクスフォード街を歩いてゐる、シヨールをかけて大きなお腹をしながら痩せ細つてやつれた一人の女、其の女が路ばたの一軒の肉屋の店頭から全く肉片もついてゐない一本の骨を取らうと細い手を伸ばす、立派な身なりをした二人の紳士——一人は

山高帽をかぶつてゐる――が馳け出して私を追ひ越した。思ふに其の肉屋から五六歩の所で彼女を捕へた。其の女が彼等の方に向けた顔は蒼白にやつれ果てた悲しみ其のものの顔である、肉屋の主人が走つて来る、群集が取り圍む、そして遂に警官が來た。私の膝頭はガタ／＼と震へ、心臓はドキ／＼と今にも息が止まるかと思ふばかりに浪打つてゐた。私は此の時、自分が弱い小娘に過ぎないことを口惜しがりながら路ばたの壁に危ふく身を支へて悶へたのであつた。

それから何年か後のことであつた。イースト・ロンドンのオールド・フォード街にある或る肉屋の店に私達の婦選のパンフレットを其處に集つてゐる人達に配り度いと思つて這入つて行つたことがあつた。するに硝子のかけ落ちた窓の外の暗がりには一人の女がゐた。ガス燈の煙かけがボンヤリと彼女の上にかゝつてゐた。其の女は邊りを見廻はしながらやにはに幾切れかの肉片を攫つた。其れを見た肉屋の亭主は大聲に怒鳴りながら飛びかゝつて彼女の手首をつかまへた。然し其の次の瞬間彼は彼女が身持の女であ

ることを見た。するに彼はあわてゝ手を放した。そして「それを持つてお行き、お神さん、一寸もお前さんが悪いんぢやあないんだよ」と言つた。然し其の女は肉片を置いたまゝ、いそいで逃げ出した。そうするに肉屋はもう一度大きな聲で「一寸お待ち！こいつを持つて行くんだよ」と叫んだ。彼の優しい親切に人々は彼女を連れ戻して前に押し出した。亭主は更に肉切臺から大きな肉の塊を切り取つて「此の方がいゝよ」と云つて彼女に無理に持たせた。彼女は此の飾らない親切な贈り物に涙を流して幾度も幾度も頭を下けながら再び暗がりの中に消えて行つた。

「はい、女が懸命に働いてゐるのを見ることは世にも最も美しい光景である」と云ふ舊い道徳が未だに人々の頭を支配してゐる。或る一人の若い方面委員が、「妊婦相談所に於ける醫務官は妊婦が愈々分婉だと言ふ時まで家事を禁ずる権限を持ち得ないか」と言ふことに付いて其の友人達に相談したが誰も皆そんな必要はないと一笑に付してしまつた。ところが其の數日後其の中の一人の家庭を訪ね

た時に、三週間後に第二世を分娩する筈になつてゐた其の細君は此の時既に床の中に入つて絶対に動くことが出来ないやうな體になつてゐた。足がひきく腫れてしまつたのであるが、之こそ何よりの啓示だ。云はなくて何であらう。

或るバラック住宅の四階に、何とも云ひようのない苦しいな様子をした一人の女がゐた。彼女の眼はドンヨリと生氣がなく、髪の毛は幾日も手入れをしないで見えて鳥の巢のようで、着物はボロ／＼のひきいものをつけてゐる。それは、此の女にも曾つては飛んだり跳ねたりした若い娘時代があつたのかと思はれる位である。彼女はもう數日後には身二つになる體であるが、足は怖しく腫れ上つてきて一時も立つてはゐられない位である。それでも彼女にはしなければならぬ澤山の仕事があつた。彼女は椅子にまたがつて夫れを杖にしてやつと室の中を動きながら、子供達に着物を着せてやつたり、ベッドの仕度をしたり、汚れた食器を洗つたり、又其の不自由な體をやつとがめながら小

さな子供達が下にこぼした食事の屑を拾つたりするのである。遂に彼女は苦しくて我慢が出来なくなつて一寸の間暇を見て横になつた。然しやつと足の痛みが少し納まりかけて來た時には又起きなければならなかつた、子供達が三時のお菓子を貰ひに來たからである。其の時ほんの一瞬間ではあつたが流石の彼女も思はず氣持の悪い顔をした。然し次の瞬間にはもう彼女は一番喧しい下の子供をしつかり腕に抱きしめて接吻をしながら、まるで自分が一寸でも氣嫌の悪い顔をしたことを悔いてゐるかのように一生懸命にあやしてゐた。それでも又彼女の足は痛み始めた。彼女は其の兩足を重ねて感覺をまぎらそうと全身の重みで押へつけながらバンにマルガリン（人造バター）をぬつてやるのであつた。此の陰惨な二部屋に住居はロンドン市會によつて建てられた「模範住宅」なのである。水道栓は數家族の共用で戸外にある。石炭入の引出函は居間の中にあるし、而かも其の直ぐ上は小穴をあけたトタン張の戸がはまつた食器戸棚である。石炭の埃りはかまはず其の穴から中に入つて食物にかゝる。室内にある一切のものは、彼女

がそれによつて數年來家族を養つてゐるミシンを除いては、皆此の上なく貧弱な古ぼけたものばかりである。

貧しい母親達にまつて其の妊娠の後期に於いて過重な家事から放免されることはどんなに有難いことであるか知れない。然し多くの母親達は其の前日までの劇しい勞働に流産や逆か産等を起すのである。彼女達は其の産室すらも自分で仕度しなければならぬ。而かも彼女達は出来るだけ最もよく其の産室を装ふために心を配る。彼女は更に其の働けない間他人の世話になることを考へて、豫め家中の大掃除をすらするのである。時に彼女は高い梁の上やカーテンの塵りを拂ふために大きなお腹を扱ひかねながらテーブルや箱の上に上つたりする。

斯の勞働にそれに伴ふ虚弱の苦しさの上に、更に母親は其の家族の多い、慰めと憩ひの家としての要素を缺いた、

平和のない、狭い貧しい住居の持つ色々な缺陷によつて害はれてゐる子供達を保護し世話をしてやるために心を悩まさなければならぬ。もう分娩と云ふ陣痛の最中に、小

さい子供が、自分の親しい母親の物々しい變つた様子や知らない他所の小母さん達のゐるのに脅えて何とも言ふことの出来ない淋しさに、唯一人母親のベッドの下にかくれながら、ひもじさ悲しさに泣き疲れて遂に寢込んでしまつてゐるの等を見付ける時の母親の氣持は如何であらう。苦しい體を動かして起してやるミ又泣きじやくつてゐる其の姿に彼女も亦泣くのである。又、母親のお産の間長い時間狭い家の中に入つてはいけないミ云はれた子供達が、寒い冬の暮れ方なきもう御飯の時間もミつくに過ぎてゐるのに入口の石段に肩を寄せ合つて、家の中から聞えて来る母親の無氣味な呻き聲を聞きながら不安と悲しさの裡に座つてゐる有様は貧しい人達のゐる街に見る毎もの光景である。又時にはお産が長びいたために放つて置かれた小さい子供が寒さに熱を出すことさへある。

私の知つてゐる幾多の貧しい家庭についての知識は、母親の産褥中に起る幼児の致命的な病氣が多く此の分娩中に起因するものであることを統計的に示し得る確信を

私に與へる。やがて母親がさうにか自分で起き上れるやうになるこゝ、今度は彼女が産褥中に病氣になつた子供の看病に云ふ大きな仕事がつてゐる。其の上に新しく生まれた赤坊にお乳をやらなければならず、又彼女が寝てゐる間放つて置かれた總ての家事を片付けて行かなければならぬ。斯くて、分娩後十日の間、日に一度或は高々二回訪ねてくれる産婆の世話になるにしても、或は醫者や家政婦の手を借りるにしても、彼女達が受けられる手當に云ふものは到底充分なものではあり得ないのである。それは有福な家庭の婦人達が、かゝりつけの醫者、熟練した産婆、看護婦から受ける完全な手當に較べるならばまるで問題にはならない。産婆の來てくれる十日の間さへ、此の貧しい労働階級の母親達は其の家事から全く自由にされることはない。小さい子供達は彼女のベッドの廻りで泣いたり騒いだりするし又慰めの腕に抱かれないとわめく、さうかと思ふに今度は、大きな子供達が、ブッディングを混ぜてくれと鉢を持つて來るし、赤坊のナブキンや去年生れた末の子のズボン下を洗つてくれと水と石鹼の入つた盥を持つて

來る。さうしてゐるうちに今度は大變な叫喚が起る、大人の洗ふ着物を自分で洗はうとしてお湯をこぼして湯傷したと云ふ騒ぎである。例へ近所の人や親戚の手傳ひが來たとしても、依然として澤山の仕事に寝てゐる母親と子供達にかゝつて來る。そして多く母親は十日の安靜も守らずに働き出して丁ふ。

「突然御手紙差上げる失禮を御許し下さいまし。私は唯今自分でも如何してよいかわからない苦しみの中に居るので御座います。何から申上げませう。私の此の不幸の始まりは、えゝ、そうです、一九一四年の八月六日の日です。それは私の夫があゝの戦争に出征してしまつたところから始まつたのです。私は其の十三日に子供を生みました。六人の子供を抱へながら私は直ぐにも食べるために歩き廻らなければなりません。其のために遂に私は八週間の長い間床につかなければならないことになりました。それ以來私は足を悪くしてしまつたのです。醫者は申しますすつかり直るまで養生をしないならば私は一生廢人にな

つてしまふだらう。考へても御覽なさいませ。私は未だやつと三十八でございます。それなのに此の年で私の小さい子供達の面倒を見るこゝが出来なくなつてしまふなんて、御分り下さいませと思ひますが、私は子供達に着物を着せてやらなければなりません。靴下や下着の繕ひもしてやらなければなりません。未だ色々のこゝをしてやらなければならぬのです。私は決して有閑婦人ではございません。若しも先生が、私がもう暫らく私の悪い足を休めてゐるこゝが出来ますやう御援け下さるこゝが出来ますならば、私はやがてすつかり治つて皆のために働くこゝが出来来るやうにならうと思ひます。唯今は、私は私自身にまつても、私の夫にまつても――彼は今は家に居ります――惨めな存在です。――之が私には相應しい運命なのかも知れませんが、若し私がそうやつて養生をするこゝが皆のためにならないとするならば私はもう狂ひになるより仕方がないと思ひます。先生、さうぞ、私がもう一度體の快くなるこゝが出来ますやうに――此の一人の惨めな母親のために、先生の御出来になりますだけの御援けを下さい……」

之は曾つて一人の母親から私に寄こした手紙である。

然し遂に、極めて徐々にはあるが、産褥中に於ける家政の援助、云ふ最も根本的な重要問題が社會意識の上に醒めて來つゝある。二三の縣では、一定の區域の最も貧窮な家庭に限つて無料で其の家事と子供達の世話をする「家政婦」を派遣するこゝになつた。指定以外の區域の家庭に於いて必要な場合は其の收入に應じて些少の金を支拂はなければならぬ。然し、斯くの如き手傳ひが與へられてもそれは極めて短い期間である。此の家政婦の派遣期間は如何なる場合にも十四日を越えるこゝは出来ない。方面委員や役人達は、一般に産婦には此の期間の援助で充分である、母親達は決して之以上の長期間の手傳ひを望んでゐない、家庭外の人がある云ふこゝは結局反つて氣を使ふこゝになる、だから彼女等は早く普通習慣通りの生活に歸つた方がいゝのだ、云々も主張する。たしかに或る場合に於いては之は事實である。他人がある云ふこゝは經濟のやりくりをするこゝを妨げるし、而かも經費の節約云々

でなければならぬ。

母親はまことに偉大なる神祕である。此の事實を知り得ないものは人生の本質を見ることの出来ないものである。

(六二頁よりつゞき)

然に接する事の出来ない幼児達はせめても想像の中に秋の森、秋の山に遊びに行き得た事を私どもは思つて喜しく見送ります。

龍宮城ゆき鳥の國ゆきは又次に書かせていただきます。

以上は相談いたしましたから當日まで一週間を要しますがかなり忙しい思ひを幼児と共にいたします。二十七八人の者が五十人以上のお客様を迎へるので、御座いますから。しかし子供達は緊張した楽しい様子です。ごします。一つの目的の爲に、組全體が活躍する云ふ事の爲にも一日を面白く遊ぶ云ふ事からも、良い遊びではないかしらと考へて居りますがどうぞ御批評下さいませ。

ふことは此の際最も必要なことなのであるから。それにしても、女醫ですらもが、勞働階級の婦人が産褥で寝てる期間が長すぎる、と言ふ驚くべき意見に賛成する者が多いのである。彼女達是有福な婦人達は決して異なる人種ではない。たしかに彼女達は其の貧弱なる健康状態にも拘らず、習慣し、そして迫られる必要から、其のひさい仕事の重積を辛うじて脊負ひ耐へてゐるけれども、然しそれは女醫先生の平常時の體力の最大限以上の勞力と精力を費してゐるのである。

ひさい貧乏と惱みの底にある家庭の中でも、母親は赤坊の樂しげな微笑を見るとき人の心は明るく躍る。まことに母親の苦しみは深く絶える間もないであらう。そして又來る次の妊娠のくびきに苦しむことを思へば怖れ戦くことではあらう。然し母親はなごみの中に其の子供に對する限りなき愛情が成長して行く。それ故に、總ての母親にまつて、最も貧しい最も重い重荷を負つた母親にまつても、嬰兒の死、死産に云ふことは最も悲しき損失、永遠の悔恨

稟

告

定規文注

一、幼稚園及び小学校、家庭、育児、看護等に關する論說調査研究等の寄稿を歓迎いたします。

一、寄稿は一行二十四字詰に記して下さい。但改行は一字下げること、また句讀點は一字あけること。

一、寄稿竝に本誌の編輯に關する通信、紹介及び寄贈の新刊書、交換雜誌、入會手續、更に

本誌の購讀及び廣告に關する通信竝に照會等一切左記編輯兼發行所宛に願ひます。

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

日本幼稚園協會

一、本誌御注文の方は凡て前金（郵税共）で願ひます。（郵便代用の場合には總て一割増）

一、御送金の場合にはなるべく振替貯金で振替口座東京一七二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます。

一、送金の節には第何巻第何月號より第何月號迄と明記せられたし。

一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特に御入用の方は往復はがきで御申越を願ひます。

一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の帶封に「前金切」の印章を押捺いたしますから其節は早速御送金を願ひます。

一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひます。

價定

一ヶ月分一冊	金參拾五錢	送料壹錢
半ヶ年分六冊	金貳圓拾錢	送料共
一ヶ年拾貳冊	金四圓貳拾錢	送料共

（外國行郵税は一部金拾貳錢の割にて御拂込下さい）

昭和七年二月十二日印刷納本
昭和七年二月十五日發行

幼兒的教育 第三十二卷 第二號

不許複製 禁轉載

編輯兼發行所 倉橋惣三
東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

印刷者 柴山則常
東京市本郷區駒込林町百七十二番地

印刷所 合資杏林舍
東京市本郷區駒込林町百七十二番地

發行所 東京女子高等師範學校附屬幼稚園内
日本幼稚園協會
振替口座東京一七二六六番

告廣

特等面一頁 金參拾圓	二等面一頁 金貳拾圓
一等面一頁 金貳拾五圓	一頁以下御斷

神田區南甲賀町八品田奥松に御申込下さい。

東京女子高等・(前)同附屬幼稚園主事 堀 七藏先生新著
 師範學校教授・(現)同附屬小學校主事

(評 好)

潮思の育教年學低

!!本礎基の施實と

歐米の幼稚園及低學年教育の實際

本書は著者堀先生が親しく歐米諸國の幼稚園及小學校を實地に視察研究せられた結晶であります。その内容は 一、歐米諸國の幼稚園教育が如何に行はれて居るか、二、幼稚園と小學校低學年とは如何なる關係にあるか、三、小學校低學年教育は如何に行はれて居るか等を著者一流の明確なるメスを以て詳説した絶對に類書なき名著であります。殊に鮮明な六十有餘の寫眞を挿入して居ながらに歐米諸國の教育狀況を視察研究出来る様にしてあります。

此はシラプいし新

く湧らか書衛前の

冊一全製布總入函判六四
 圖餘〇六版眞寫頁〇三五
 錢十八圓二金價定
 錢八十金料送

賞與品に
 先ず是を!!

新作
 童話 打たずに鳴る太鼓

・美本・定價一圓三十錢・送料十二錢。
 本書は女子に安心して讀ませられる文藝趣味豊かな新作
 童話を二十餘篇を入れたもので學校圖書館用として、又
 兒童の賞與品として最も適したものである。

東京女子高等師範學校講師 金子彦二郎先生著
 全國民愛誦の精神作興新讀本
 但誦で書いた良圖書認定・若溪會良書推薦
 (文部省優良圖書認定)

東京高等師範學校前教官 水戸部寅松先生著
 青少年に歐洲航路の珍見聞
 聴かせたい

定價十五錢 送料六錢
 定價十九錢 送料八錢

店書堂元三

東京市神田區錦町一丁目二番地
 振替東京七九〇番・電話神田三七四番

所賣發

廣島文理科
大學教授
文學博士
久保良英
先生新著

兒童研究所紀要

卷十四

大挿定金料
洋圖三金
裝百圓拾
全十五拾
冊一頁八

教育的に先進國たる歐米諸國に於ける位置を占むべき兒童の心理學的立場から研究するに重要な位置を占むべき兒童の純理的立場から研究するに重要な位置を占むべき兒童の効果を收めんと企て右施設に巨額の國費を擲つて核機を設ける今日獨り我邦に久保博士の絶無なるを慨し、久保博士の立好の士が私財を投じて貴重なる研究の發表は、研究所の最新智識として學界に推奨せらる。

次目内容卷四十

職業指導用テストの試み
家庭の職業に對する兒童及び青年の好惡
教育成績に及ぼす影響の綜合的研究
犯罪少年の體型、足型及び精神病學的考察
自己判斷による性格と血液型との關係
兒童畫の發達に就いて
兒童における數型現象
(數型共感覺及直觀像の關係)
英語教授法の實驗的研究
高等學校生徒の聯想傾向
青年期の思慕の情に就て

文學博士 久保良英	文學士 佐藤幸治	醫學士 渡邊義	文學博士 霜鳥喜逸	文學士 久保良英	文學士 牛島義友	文學士 內田勇三郎	文學士 衣笠慎之助	文學士 木村武介	文學士 增田幸一	文學博士 久保良英
-----------	----------	---------	-----------	----------	----------	-----------	-----------	----------	----------	-----------

兒童研究所紀要

11/2/3
合輯

大判洋綴背皮天
紙數千貳百頁餘金
定價金十圓五十錢
送料金五拾四錢

1234合輯 定價九圓五拾錢 送料五拾四錢
567合輯 定價拾圓五拾錢 送料五拾四錢
8910合輯 定價拾圓五拾錢 送料五拾四錢

智能查定用具

ボール紙型箱入
一組參圓送料拾八錢

智能の查定が手輕に出来る。兒童研究所紀要の實際的研究唯一の用具。

團體的智能検査用紙B式

大判全二冊
定價各冊參錢

本用紙は久保先生の考案になる兒童智能検査用紙團體的用途。

發行所 東京市牛込區中文館書店 振替電話 東京三三三番 八三三番 四二二番 七二二番 番

保 育 證 書

第 號

保 育 證

年 月 日 生

右 者 本 園 ニ 於 テ

間 保

育 セ シ コ ト フ 證 ス

年 月 日

東 京 市 本 郷 區 第 一 幼 稚 園

昭和四年五月十五日第三種郵便物認可
(毎月一回十五日發行)

昭和七年二月十二日印刷納本
昭和七年二月十五日發行

は 一 刻 も お は や く !

上掲の如き堅緻強靱な厚めの紙に金刷輪廓、文字墨色の壯麗なもの

- 一枚 金 五 錢
- 百枚 (園名入) 金 四 圓
- 五十枚 (園名入) 金 二圓五十錢

御園名人の御注文は即刻!二月末日以後は残念ながら本年も絶対に貴需に應じ兼ねます。

※

學年末のたゞいま、御用意遊はすべき品々

- ◇出席簿用紙 百枚 金 一 圓
- ◇豫定案兼日誌 一冊 (一年分) 金 二圓二十錢
- ◇在籍簿用紙 百枚 金 八 十 錢
- ◇月謝袋 百枚 金 一圓四十錢
- ◇出席獎勵カード 十二枚 (一ヶ年分) 金 十 錢

これは本年の新製品、厚紙に美しい色刷の表紙の内面の日附欄にその月の通信簿用貼紙を貼付すると共に、別欄に季節に應じて塗り繪風に風景靜物模様等を現し之れに前記の貼紙その他を貼付して、一枚の見事な手技製作が出来上り、幼兒をして季節の觀察、技功の發達を促すと共に興味つきさるものがあります。然も新庄先生の保育擔任の各位及び家庭の爲めに劃切實實際的な御注意の美しい短文を配し、裏面に幼稚園と家庭との聯絡の爲めの通信欄を設けてあります。

定 價 三 十 五 錢

保 育 用 品 製 造 發 賣 元
キンダーブック發行所

株 式 會 社 フ レ ー ベ ル 館

東 京 神 田 一 ツ 橋 通 教 育 會 館 門

電 話 九 段 (33) 38270 (郵 政 文 明)・3488・3637・3638 通 信 口 座 東 京 19640

保 育 證 は お 忘 れ が ち で す。
即 刻 の 御 用 意 が 安 全 第 一 !